

プログラマブル多軸モーションコントローラ

スタートアップガイド

EtherCATカプラユニット／ セーフティCPUユニット／ セーフティI/Oユニット編(IDEv4)

形CK5M-CPU1□1

形CK3M-CPU1□1

形CK3E-□□□□

Startup
Guide

おことわり

- (1) 本マニュアルの内容の一部または全部を無断で複写、複製、転載することを禁じます。
- (2) 本マニュアルの内容に関しては、改良のため予告なしに仕様などを変更することがあります。
あらかじめご了承ください。
- (3) 本マニュアルの内容に関しては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お手数ですが、弊社支店または営業所までご連絡ください。
その際、巻末記載の**Man.No.** (マニュアルNo.) も併せてお知らせください。

商標

- **Sysmac**は、オムロン株式会社FA機器製品の日本およびその他の国における商標または登録商標です。
 - **Microsoft, Windows, Excel, Visual Basic, Microsoft Edge**は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - **EtherCAT®**は、ドイツBeckhoff Automation GmbHによりライセンスされた特許取得済み技術であり登録商標です。
- その他、本文中に掲載している会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

著作権

- スクリーンショットはマイクロソフトの許諾を得て使用しています。
- 本製品にはサードパーティ製のソフトウェアが組み込まれています。このソフトウェアに関連するライセンスと著作権については、http://www.fa.omron.co.jp/nj_info_j/ をご覧ください。

目 次

1. 関連マニュアル	4
2. 用語と定義	5
3. 注意事項	6
4. 概要	7
5. 対象機器とデバイス構成	8
5.1. 対象機器	8
5.2. デバイス構成	9
6. EtherCAT の接続手順	11
6.1. 作業の流れ	11
6.2. EtherCAT カプラユニットの設定	13
6.3. コントローラの設定準備	25
6.4. ESI ファイルのインストール	30
6.5. EtherCAT 通信の設定	31
6.6. コントローラの設定	51
7. 付録 プロジェクトの保存と読出し	56
7.1. プロジェクトの保存	56
7.2. プロジェクトの読出しとダウンロード	58
8. 付録 トラブルシュート	61
8.1. EtherCAT 通信できない要因と対処	61
8.2. 異常の確認方法	62
9. 付録 ECAT[i]構造体要素	65
10. 改訂履歴	66

1. 関連マニュアル

システムを安全にご使用いただくため、システムを構成する機器・装置のマニュアルや取扱説明書などを必ず入手し、「安全上のご注意」「安全上の要点」など安全に関する注意事項を含め、内容を確認のうえ使用してください。

オムロン株式会社（以下、オムロン）、米国デルタ タウ データ システムズ社（以下、DT 社）のマニュアルは以下のとおりです。

メーカー	Man.No.	形式	マニュアル名称
オムロン	SBCE-402	形 CK3E-1□10	プログラマブル多軸モーションコントローラ ユーザーズマニュアル ハードウェア編
オムロン	SBCE-435	形 CK3M-CPU1□1 形 CK5M-CPU1□1	プログラマブル多軸モーションコントローラ ユーザーズマニュアル ハードウェア編
オムロン	SBCD-361	形 NX-ECC203	NX シリーズ EtherCAT® カプラユニットユーザーズマニュアル
オムロン	SGFM-710	形 NX-SL□□□□ 形 NX-SI□□□□ 形 NX-SO□□□□	NX シリーズ セーフティコントロールユニット ユーザーズマニュアル
オムロン	SBCA-470	形 SYSMAC-SE2□ □□	オートメーションソフトウェア Sysmac Studio Version 1 オペレーションマニュアル
DT 社	SBCE-404	—	Power PMAC ユーザーズマニュアル
DT 社	SBCE-405	—	Power PMAC ソフトウェアリファレンス マニュアル
DT 社	SBCE-439	—	Power PMAC IDE ユーザーズマニュアル

2. 用語と定義

用語	説明・定義
スレーブ	スレーブは、EtherCAT に接続する機器で、位置情報などのデータを扱うサーボドライバなどから、ビット信号を扱う I/O ターミナルなど様々なものがあります。
オブジェクト	スレーブ内のデータやパラメータなどの情報を表します。
PDO 通信 (Process Data Objects 通信)	EtherCAT 通信の一種で、定周期でリアルタイムの情報交換を行うプロセスデータオブジェクト (Process Data Objects: PDO) を使用した通信。「プロセスデータ通信」とも呼びます。
PDO マッピング	PDO 通信に使用するオブジェクトの関連づけのこと。
PDO エントリ	PDO マッピングに使用する個々のオブジェクトへのポインタ。
ESI ファイル (EtherCAT Slave Information ファイ ル)	EtherCAT スレーブ固有の情報を XML 形式で記述したファイル。 このファイルを Power PMAC IDE に読み込ませることにより、スレーブのプロセスデータの割り付けなど各種設定を行うことができます。
ENI ファイル (EtherCAT Network Information ファイル)	EtherCAT スレーブのネットワーク構成情報を記述したファイル。
Power PMAC IDE	コントローラの設定、ユーザプログラムの作成、モニタを行うためのパソコン用ソフトウェア。 PMAC は Programmable Multi Axis Controller の略称です。

3. 注意事項

- (1) 実際のシステム構築に際しては、システムを構成する各機器・装置の仕様をご確認のうえ、定格・性能に対し余裕を持った使い方をし、万一故障があっても危険を最小にする安全回路などの安全対策を講じてください。
- (2) システムを安全にご使用いただくため、システムを構成する各機器・装置のマニュアルや取扱説明書などを入手し、「安全上のご注意」「安全上の要点」など安全に関する注意事項を含め、内容を確認のうえ使用してください。
- (3) システムが適合すべき規格・法規または規制に関しては、お客様自身でご確認ください。
- (4) 本資料の一部または全部を、オムロン株式会社の許可なしに複写、複製、再配布することを禁じます。
- (5) 本資料の記載内容は、2022 年 9 月時点のものです。
本資料の記載内容は、改良のため予告なく変更されることがあります。

本資料で使われているマークには、次のような意味があります。

 警告	正しい取り扱いをしなければ、この危険のために、軽傷・中程度の傷害を負ったり万一の場合には重傷や死亡に至ったりする恐れがあります。また、同様に重大な物的損害をもたらす恐れがあります。
---	--

 注意	正しい取り扱いをしなければ、この危険のために、時に軽傷・中程度の傷害を負ったり、あるいは物的損害を受けたりする恐れがあります。
---	---



使用上の注意

製品の動作不能、誤動作、または性能・機能への悪影響を予防するために実施または回避すべきことを示します。



参考

必要に応じて読んでいただきたい項目です。
知っておくと便利な情報や、使用するうえで参考となる内容について説明しています。

図記号の説明



●記号は、強制を意味しています。
具体的な内容は、●の中と文章で示します。
左図の場合は、「一般的な指示」を表します。

4. 概要

本資料は、オムロン製 NX シリーズ EtherCAT カプラユニット（以下、カプラ）形 NX-ECC203 に装着したセーフティ CPU ユニット、セーフティ I/O ユニット（以下、スレーブ）を、オムロン製プログラマブル多軸モーションコントローラ形 CK3E-□□□□/形 CK3M-CPU1□1/形 CK5M-CPU1□1（以下、コントローラ）と、EtherCAT で接続する手順とその確認方法をまとめたものです。

「6. EtherCAT の接続手順」で記載している設定内容および設定手順のポイントを理解することにより、EtherCAT の PDO 通信を動作させることができます。

5. 対象機器とデバイス構成

5.1. 対象機器

接続の対象となる機器は以下のとおりです。

メーカー	名称	形式
オムロン	プログラマブル多軸モーションコントローラ	形 CK3E-□□□□
オムロン	プログラマブル多軸モーションコントローラ	形 CK3M-CPU1□1 形 CK5M-CPU1□1
オムロン	NX シリーズ EtherCAT カプラユニット	形 NX-ECC203
オムロン	NX シリーズ セーフティ CPU ユニット	形 NX-SL3□□00
オムロン	NX シリーズ セーフティ I/O ユニット	形 NX-SI□□□□ 形 NX-SO□□□□
オムロン	NX シリーズ デジタル I/O ユニット	形 NX-ID□□□□ 形 NX-IA□□□□ 形 NX-OC□□□□ 形 NX-OD□□□□ 形 NX-MD□□□□



使用上の注意

EtherCAT カプラユニットは、形 NX-ECC203 Version 1.5 以降をご使用ください。
形 NX-ECC201、形 NX-ECC202 は使用できません。



使用上の注意

本資料の接続手順および接続確認では、上記対象機器の中から 5.2.項に記載された形式およびバージョンの機器を使用しています。

5.2 項に記載されたバージョンより古いバージョンの機器は使用できません。

上記対象機器の中から 5.2.項に記載されていない形式、あるいは 5.2.項に記載されているバージョンより新しいバージョンの機器を使用する場合は、マニュアルや取扱説明書などにより仕様上の差異を確認のうえ、作業を行ってください。

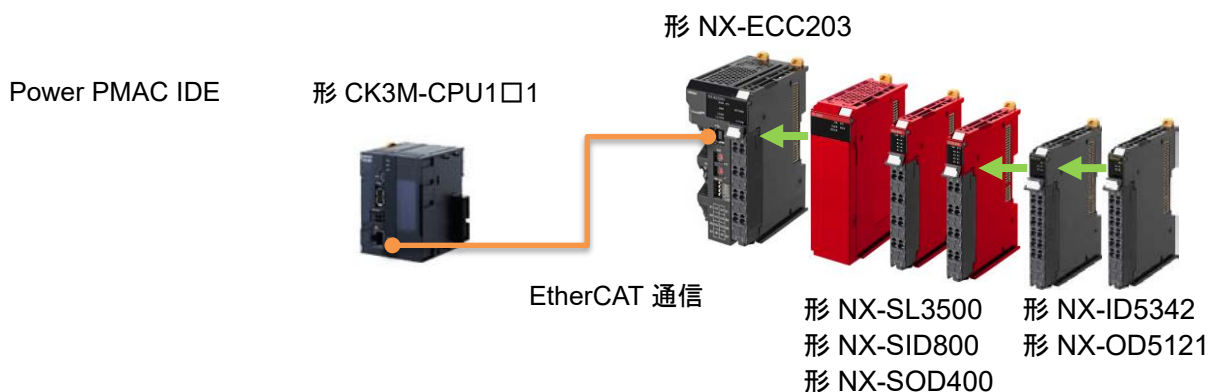


参考

本資料は通信確立までの接続手順について記載したものであり、接続手順以外の操作、設置、配線方法、および機器の機能や動作に関しては記載しておりません。マニュアルや取扱説明書などを参照するか、オムロンまでお問い合わせください。

5.2. デバイス構成

本資料の接続手順を再現するための構成機器は以下のとおりです。



メーカー	名称	形式	バージョン
オムロン	プログラマブル多軸モーションコントローラ	形 CK3M-CPU1□1	Ver.2.7
オムロン	NX シリーズ EtherCAT カプラユニット	形 NX-ECC203	Ver.1.5
オムロン	NX シリーズ セーフティ CPU ユニット	形 NX-SL3500	Ver.1.0
オムロン	NX シリーズ セーフティ入力ユニット	形 NX-SID800	Ver.1.0
オムロン	NX シリーズ セーフティ出力ユニット	形 NX-SOD400	Ver.1.0
オムロン	NX シリーズ デジタル入力ユニット	形 NX-ID5342	Ver.1.0
オムロン	NX シリーズ デジタル出力ユニット	形 NX-OD5121	Ver.1.0
オムロン	Ethernet ケーブル（産業用イーサネットコネクタ付きケーブル）	形 XS5W-T421-□M□-K	
オムロン	Sysmac Studio	SYSMAC-SE2□□□	Ver.1.25
DT 社	Power PMAC IDE	—	Ver.4.6



使用上の注意

本項記載の ESI ファイルを事前に準備してください。ESI ファイルはオムロン株式会社のホームページからダウンロードできます。

Home> 商品情報> 商品カテゴリ> FA システム機器> マシンオートメーションコントローラ> NX シリーズ I/O システム> 通信カプラユニット> NX-ECC の[カタログ/マニュアル/CAD/ソフトウェア]へ移動し、
 [ソフトウェア]を選択してください。



使用上の注意

EtherCAT 通信を、他の Ethernet 通信の回線と共有しないでください。

また、スイッチングハブなどの Ethernet 用機器を使用しないでください。

Ethernet ケーブルには、カテゴリ 5 以上でアルミテープと編組で二重遮へいされたケーブルと、カテゴリ 5 以上でシールド対応のコネクタを使用してください。

ケーブルのシールドは両端ともコネクタフードに接続してください。



参考

本書は、形 CK3M-CPU1□1 を例に説明しています。形 CK3E-□□□□/ CK5M-CPU1□1 も同様の手順です。

6. EtherCAT の接続手順

本章では、コントローラとスレーブを EtherCAT で接続するための手順について記載します。
本資料では、コントローラが工場出荷時の初期設定状態であることを前提として説明します。

6.1. 作業の流れ

コントローラとスレーブを EtherCAT で接続し、EtherCAT の PDO 通信を動作させるための手順は以下のとおりです。

6.2 EtherCAT カプラユニットの設定

EtherCAT カプラユニットの設定準備を行います。

6.2.1 新規プロジェクトの作成

6.2.2 ネットワーク構成の設定

6.2.3 I/O マップの設定

6.2.4 セーフティ入出力機能の設定

6.2.5 セーフティプログラムの作成

6.2.6 通信カプラユニットへの接続による転送

6.2.7 カプラ I/O 割付の出力

6.2.8 デバッグモードへの切り替え

6.2.9 妥当性確認の実行

6.2.10 運転モードへの変更

6.3 コントローラの設定準備

コントローラの設定準備を行います。

6.3.1 新規プロジェクトの作成

6.3.2 コントローラの初期設定

6.4 ESI ファイルのインストール

PowerPMAC IDE にスレーブ用の ESI ファイルをインストールします。

6.5 EtherCAT 通信の設定

EtherCAT 通信の設定を行います。



6.5.1 EtherCAT マスタの通信設定



6.5.2 ディストリビュートクロックの設定



6.5.3 セーフティコントローラの変数設定



6.5.4 PDO マッピングの設定



6.5.5 カプラ I/O と変数の割付



6.5.6 EtherCAT ネットワーク構成ファイルの作成



6.6 コントローラの設定

コントローラの設定を行います。



6.6.1 EtherCAT 通信の確認



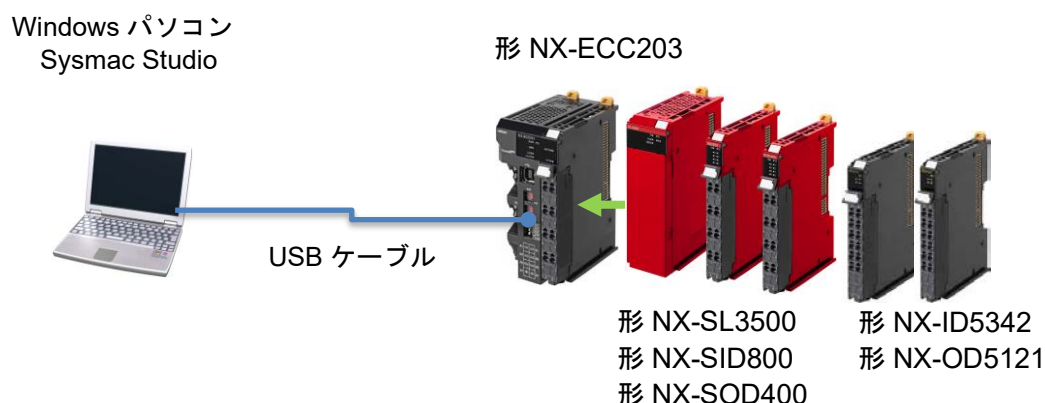
6.6.2 ユーザプログラムの作成



6.6.3 プロジェクトデータの転送

6.2. EtherCAT カプラユニットの設定

EtherCAT カプラユニットのスレーブターミナルの設定を行います。
Sysmac Studio を、あらかじめパソコンにインストールした PC を用意してください。



6.2.1. 新規プロジェクトの作成

1 カプラとパソコンを USB ケーブルで接続します。

2 カプラの電源を投入します。

3 Sysmac Studio を起動します。

※起動時に、アクセス権確認用のダイアログが表示される場合、起動する選択を行ってください。

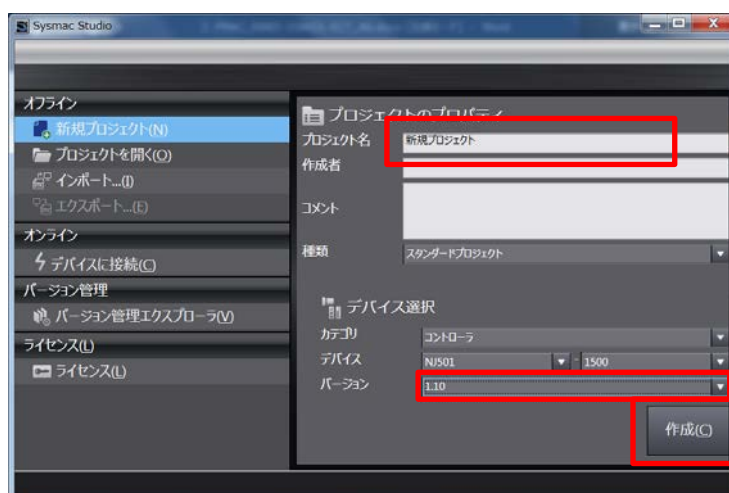


4 Sysmac Studio でプロジェクトを新規に作成します。

【プロジェクトのプロパティ】
「プロジェクト名」などを入力します。

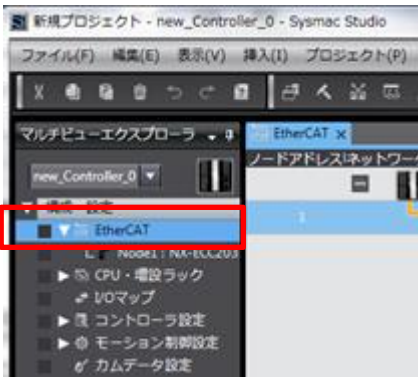
【デバイス選択】
「カテゴリ」は「コントローラ」を選択します。
「デバイス」、「バージョン」は任意で構いません。ここでは、「NJ501-1500、1.10」を選択します。

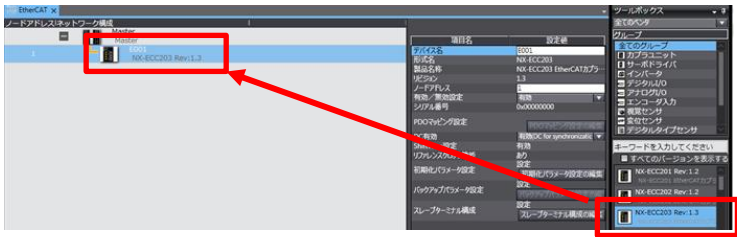
「作成」をクリックします。

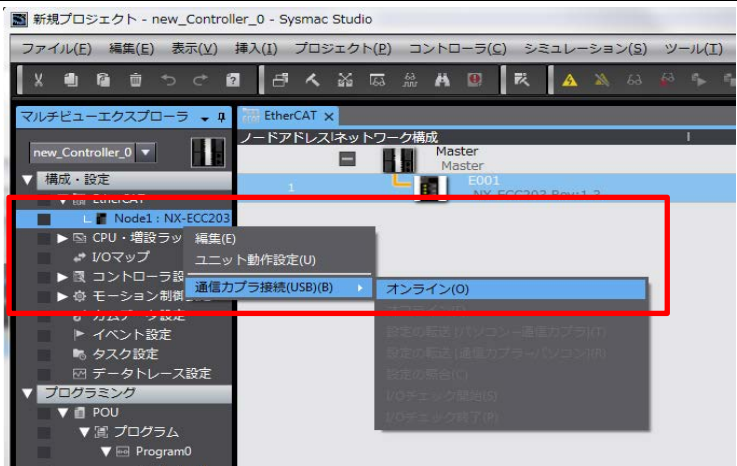


6.2.2. ネットワーク構成の設定

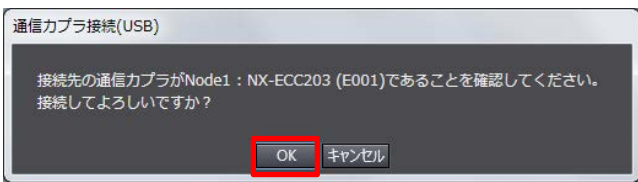
- 1** マルチビューエクスプローラから [構成・設定] – [EtherCAT] をダブルクリックします。


- 2** ツールボックスで EtherCAT カプラユニット NX-ECC203 を選択し、EtherCAT の構成編集画面のマスタの下にドラッグ& ドロップします。

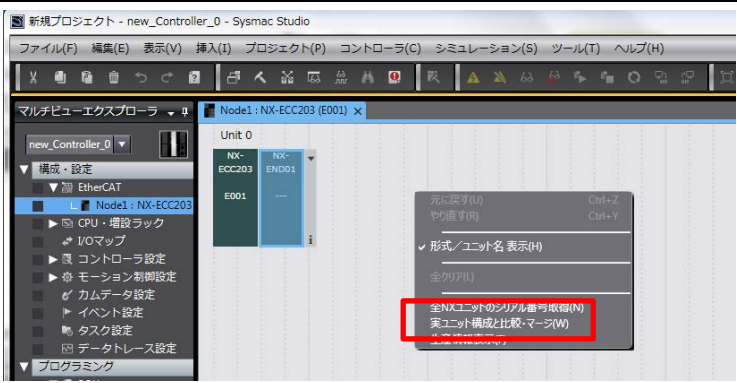

- 3** マルチビューエクスプローラ上の[NX-ECC203]を右クリックして、[通信カプラ接続(USB)] – [オンライン] を選択します。



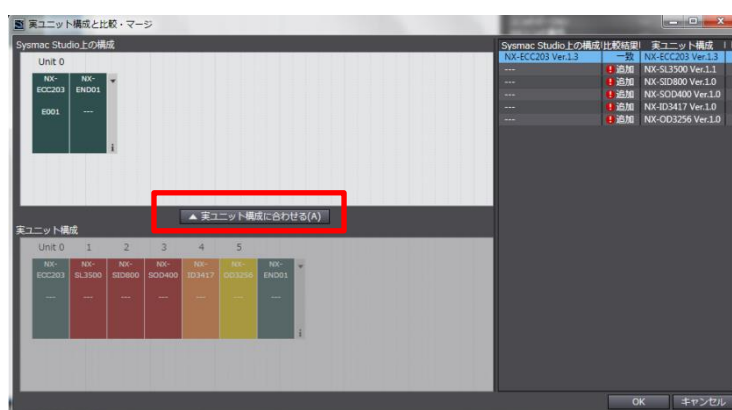
USB の接続先を確認後、「OK」ボタンをクリックします。


- 4** マルチビューエクスプローラ上の[NX-ECC203]をダブルクリックし、[NX-ECC203]の編集ウィンドウを開きます。

構成編集画面上で右クリックして [実ユニット構成と比較・マージ] を選択します。



- 5 [実ユニット構成に合わせる]をクリックし、実ユニット構成と同じにします。

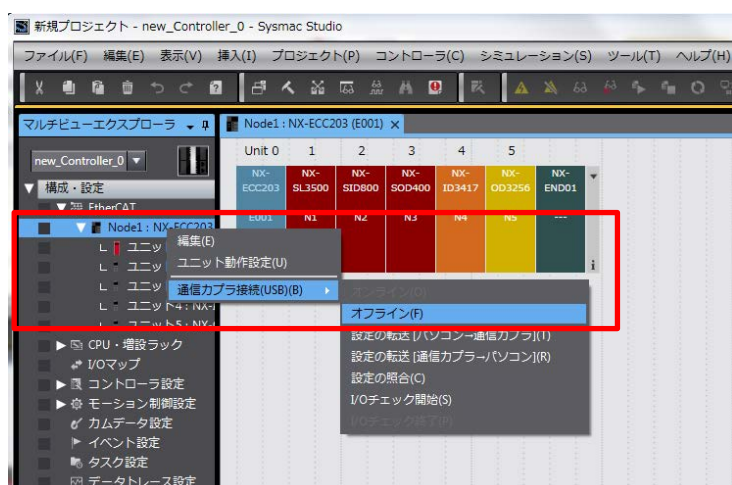


使用上の注意

実ユニット構成の比較・マージ機能では、スレーブターミナルのユニット構成のみが読み出せます。I/O 割付情報、ユニット動作設定、ユニットアプリケーションデータは読み出せません。

6.2.3. I/O マップの設定

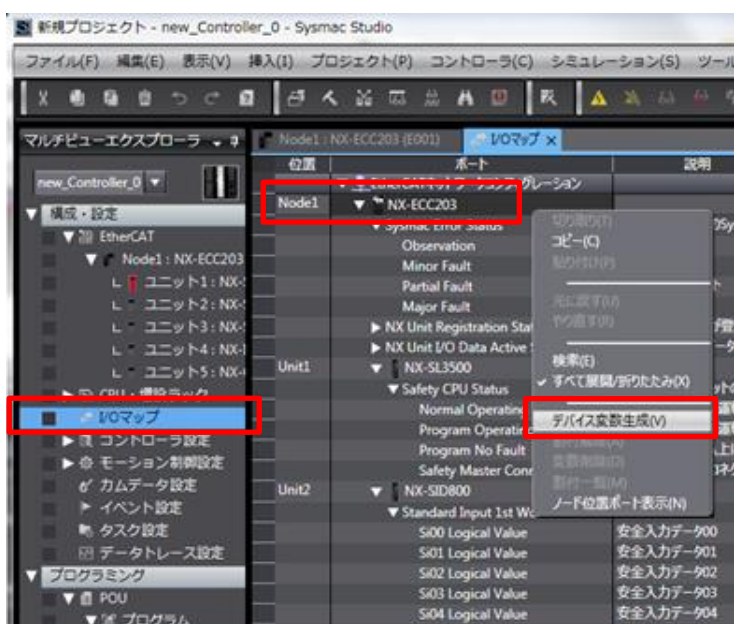
- 1 マルチビューエクスプローラ上の「NX-ECC203」を右クリックして、[通信カプラ接続(USB)] - [オフライン] を選択します



2

マルチビューエクスプローラで
[構成・設定] - [I/O マップ]
を選択し、[I/O マップ]画面を開
きます。

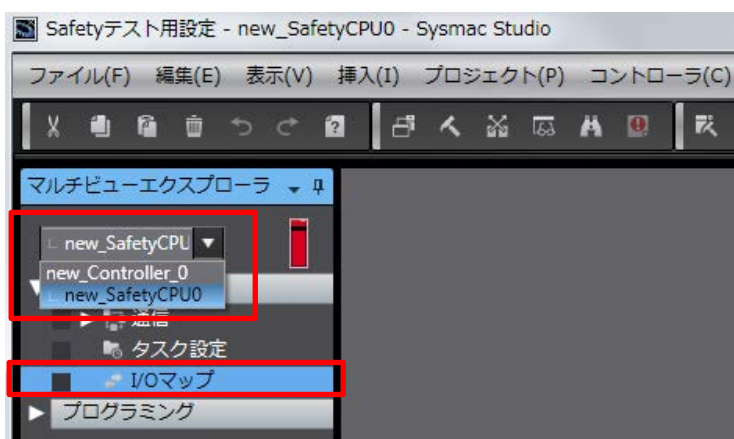
[NX-ECC203]上で右クリック
し、メニューから[デバイス変数
生成]を選択します。



3

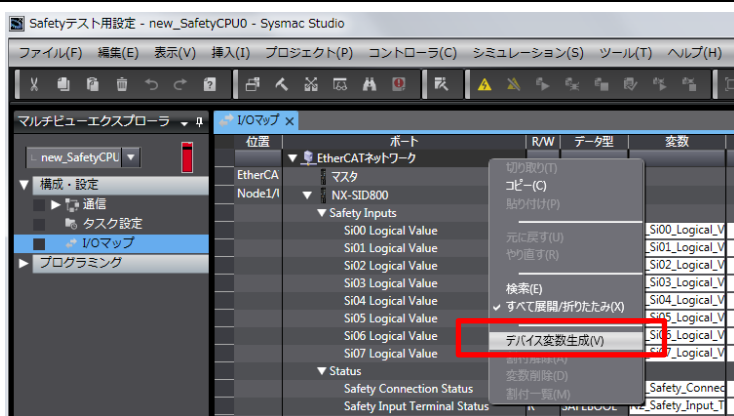
マルチビューエクスプローラの
コントローラ選択ボックスか
ら、対象となるセーフティ CPU
ユニットを選択します。

「I/O マップ」をダブルクリック
し、Safety 用「I/O マップ」画面
を開きます。



4

[EtherCAT ネットワーク]上で右
クリックし、メニューから[デバ
イス変数生成]を選択します。

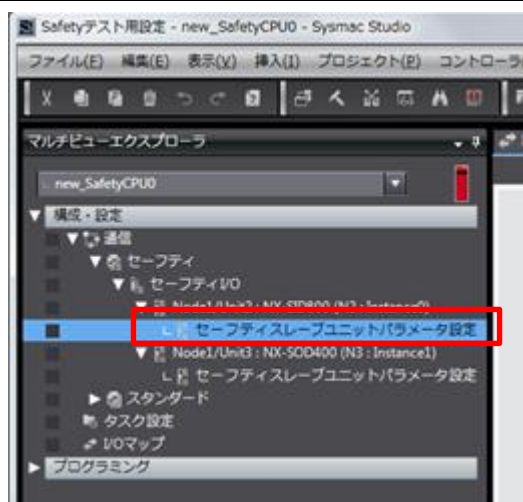


6.2.4. セーフティ入出力機能の設定

1

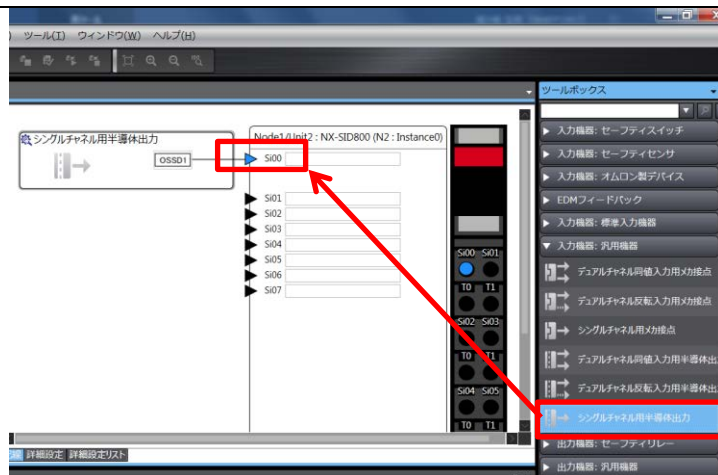
マルチビューエクスプローラのコントローラ選択ボックスから、対象となるセーフティ CPU ユニットを選択します。

「構成・設定」の NX-SID800 の下の「セーフティスレーブユニットパラメータ設定」をダブルクリックします。



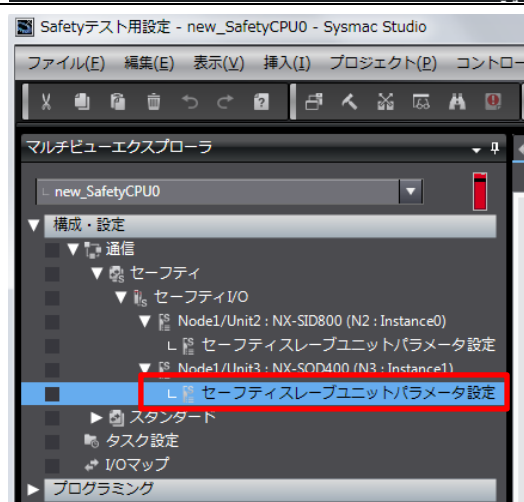
2

ツールボックスの[入力機器：半導体出力タイプ]から[シングルチャネル用半導体出力]を選択し、入力端子の上へドラッグ&ドロップします。

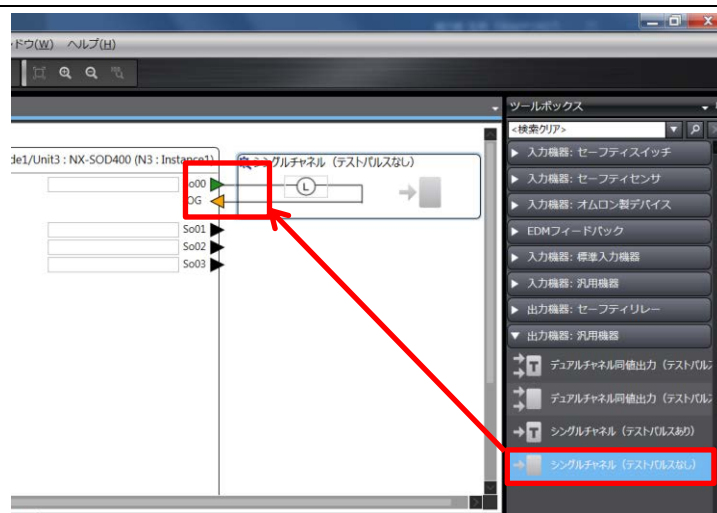


3

「構成・設定」の NX-SOD400 の下の「セーフティスレーブユニットパラメータ設定」をダブルクリックします。



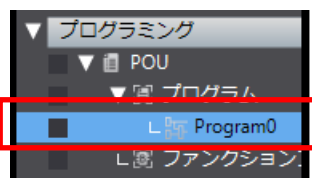
- 4** ツールボックスの[出力機器]から[シングルチャネル（テストパルスなし）]を選択し、出力端子の上へドラッグ&ドロップします。



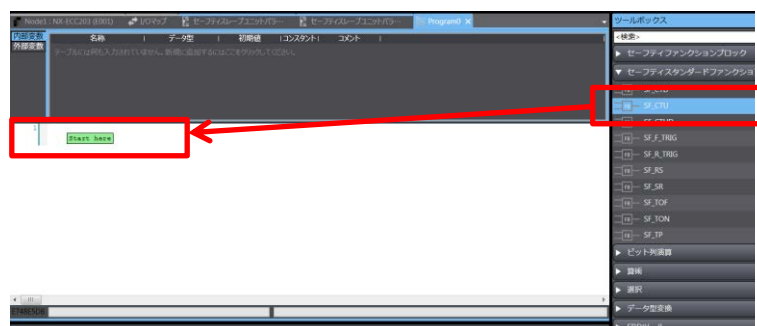
6.2.5. セーフティプログラムの作成

- 1** プログラムの新規登録

マルチビューエクスプローラの[プログラミング]–[POU]–[プログラム]上で右クリックし、メニューから[追加]–[プログラム]を選択します。



- 2** ツールボックスで SF_CTU を新規ネットワーク上の[Start Here]へドラッグします。



- 3** 内部変数をタブで選択したあと、ローカル変数を登録/編集します。
- 名称 : reset
データ型 : SAFEBOOL
初期値 : FALSE

内部変数	名称	データ型	初期値	コンスタント	コメント
外部変数	reset	SAFEBOOL	FALSE	☐	
	pv	SAFEINT	3	☒	
	SF_CTO_U	SF_CTO		☐	

名称 : pv
データ型 : SAFEINT
初期値 : 3
属性 : コンスタント

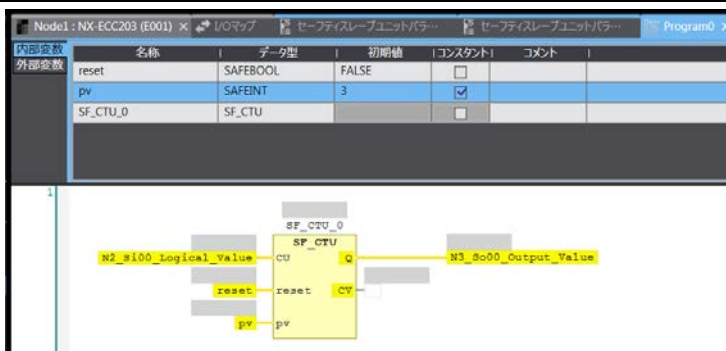
- 4** FBD ネットワーク上のパラメータを選択して直接変数名を入力します。

CU : N2_Si00_Logical_Value

Reset : reset

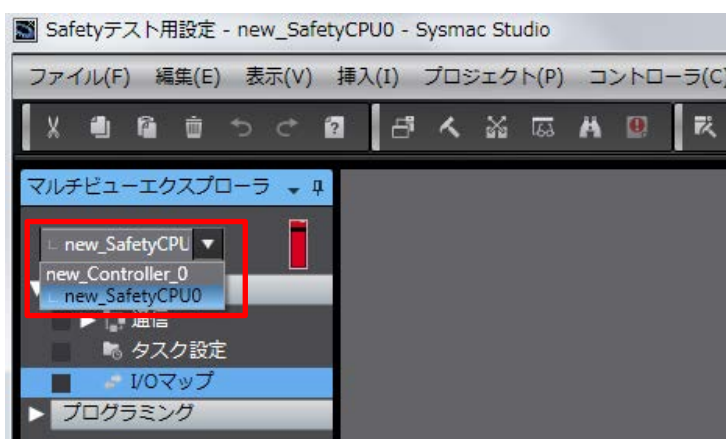
PV : pv

Q : N3_So00_Output_Value



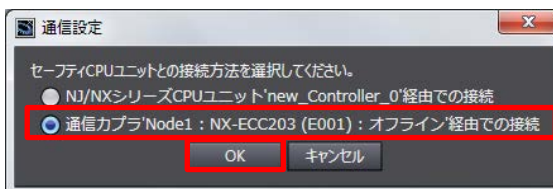
6.2.6. 通信カプラユニットへの接続による転送

- 1** マルチビューエクスプローラのコントローラ選択ボックスから、セーフティ CPU ユニットを選択します。



- 2** メニュー [コントローラ] - [通信設定] を選択します。

通信設定画面で「通信カプラ経由での接続」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。

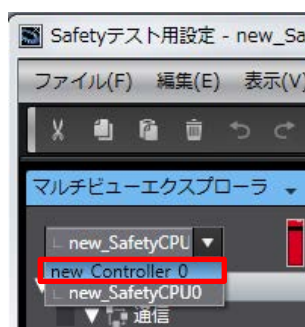


- 3** メニュー [コントローラ] - [オンライン] を選択します。

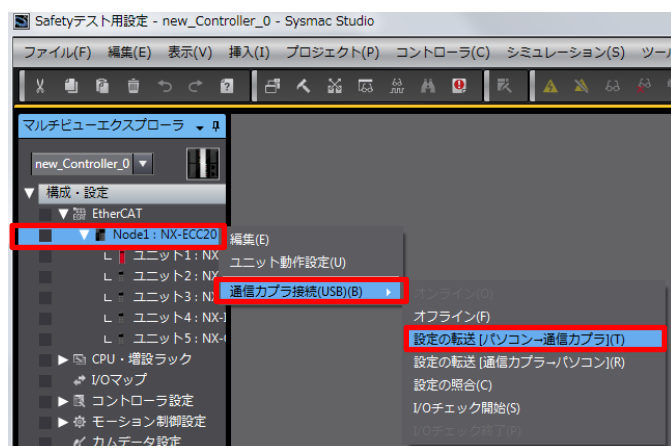
スレーブターミナルへオンライン接続した状態になります。



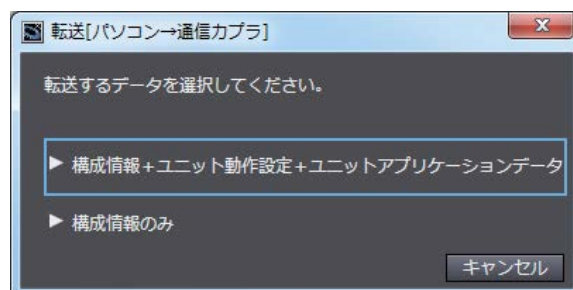
- 4 マルチビューエクスプローラのコントローラ選択ボックスから、コントローラを選択します。



- 5 スレーブターミナルの構成編集画面上の通信カプラユニットを右クリックして、[設定の転送 [パソコン→通信カプラ]] を選択します。



「構成+ユニット動作設定+ ユニットアプリケーションデータ」をクリックします。



6.2.7. カプラ I/O 割付の出力

1 メニュー [コントローラ] – [オフライン] を選択します。

2 マルチビューエクスプローラの [構成・設定]–[EtherCAT] をダブルクリックします。

[Master] 上で右クリックし、メニューから [全カプラ I/O 割付のエクスポート] を選択します。

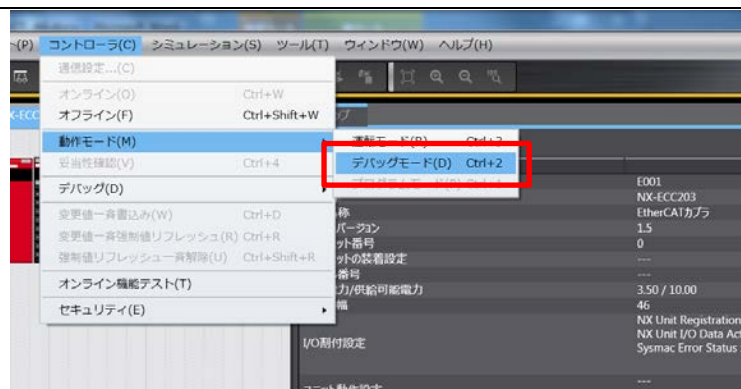
The first screenshot shows the Sysmac Studio menu bar with 'コントローラ(C)' highlighted. The 'オフライン(F)' option is selected, with the keyboard shortcut 'Ctrl+Shift+W' displayed. The second screenshot shows the 'EtherCAT' configuration window. The '構成・設定' (Configuration) tab is active, and the 'EtherCAT' item in the left tree is selected. A right-click context menu is open over the 'Master' node, and the '全カプラ I/O 割付のエクスポート' (Export all coupling I/O assignment) option is highlighted at the bottom.

6.2.8. デバッグモードへの切り替え

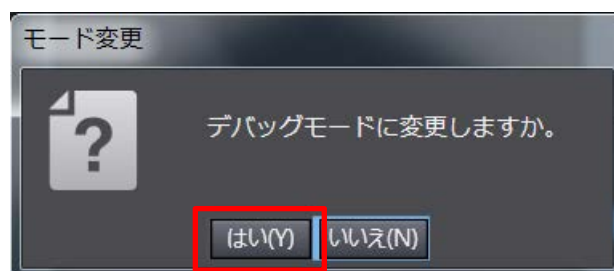
1 Sysmac Studio のマルチビューエクスプローラのコントローラ選択からセーフティ CPU ユニットを選択します。

The screenshot shows the 'マルチビューエクスプローラ' (Multi-View Explorer) window. The 'new_SafetyCPU0' dropdown menu is highlighted with a red box. Below it, the tree structure shows '構成・設定' (Configuration) expanded, with '通信' (Communication) selected. The 'プログラミング' (Programming) section is also expanded, showing 'POU', 'プログラム' (Program), 'ファンクションブロック' (Function Block), 'データ' (Data), and 'Safety Task'. The 'Safety Task' item is highlighted.

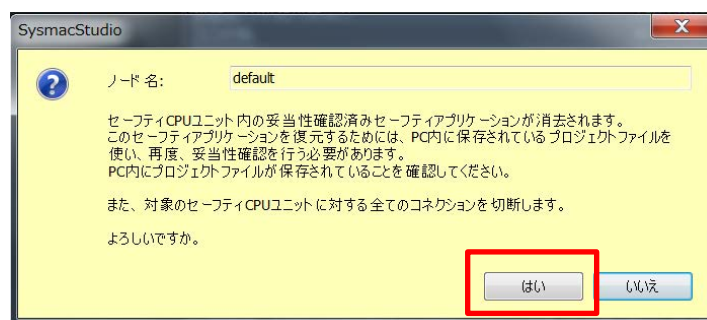
- 2 [コントローラ]—[動作モード]—
[デバッグモード]を選択します。



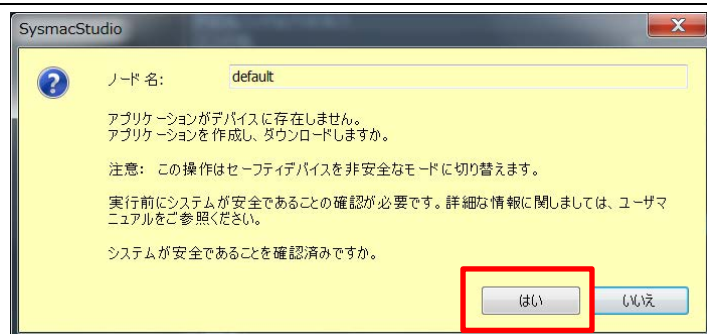
- 3 モード変更の確認ダイアログボックスが表示されます。[はい]ボタンをクリックします。



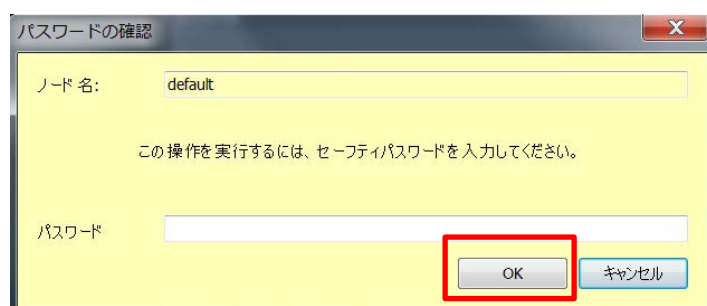
- 4 ノード名の設定ダイアログボックスが表示されます。[はい]ボタンをクリックします。



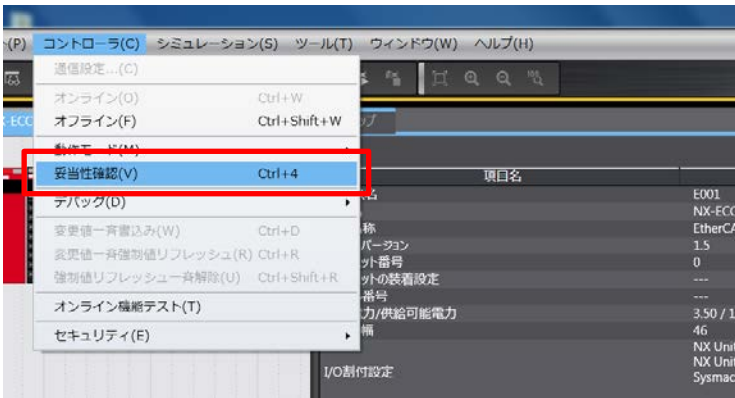
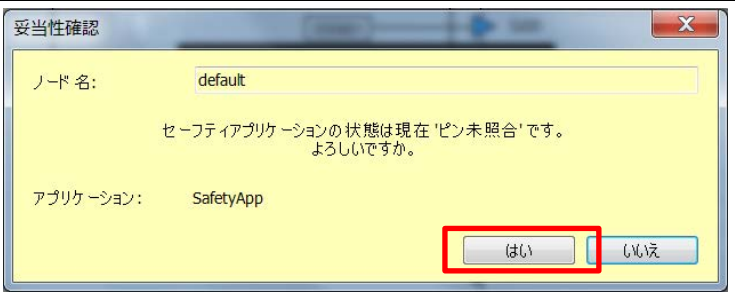
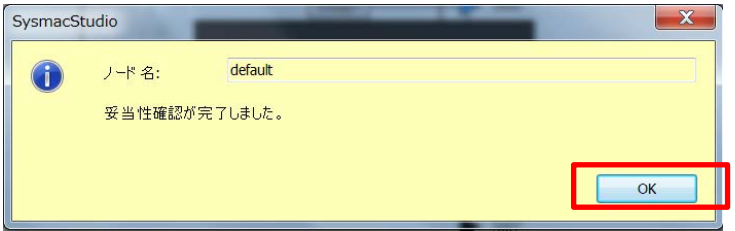
- 5 転送許可の確認ダイアログボックスが表示されます。システムが安全であることを確認してから[はい]ボタンをクリックします。



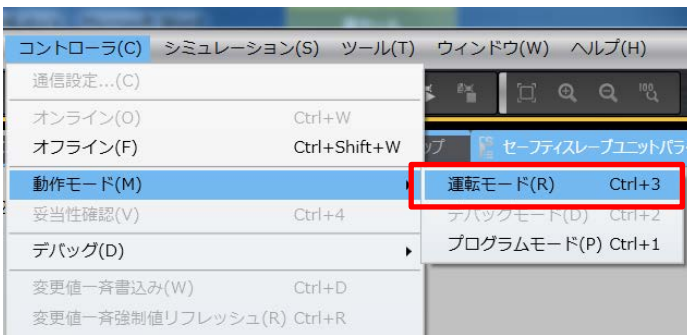
- 6 パスワードの確認ダイアログボックスが表示されます。はじめて使用する場合、またはまだセーフティパスワードを設定していない場合は[パスワード]の欄は空白のまま[OK]ボタンをクリックします。

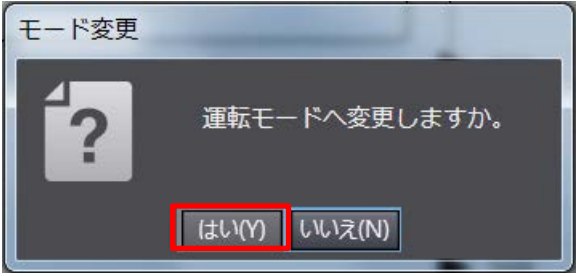
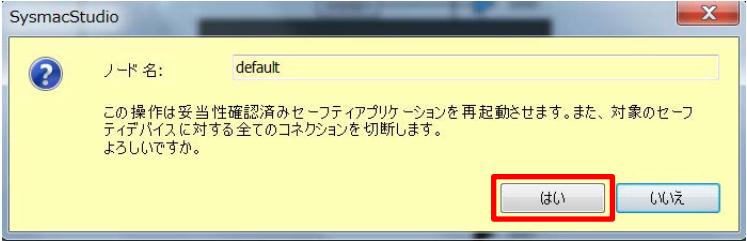
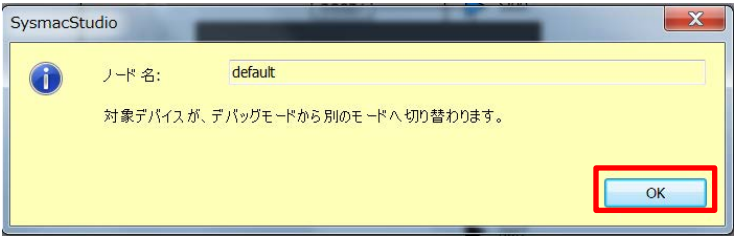
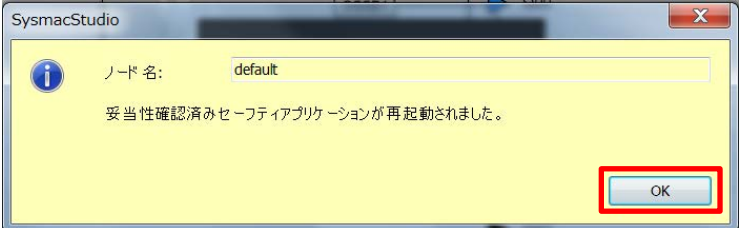


6.2.9. 妥当性確認の実行

- 1 [コントローラ]ー[妥当性確認]ー
を選択します。

- 2 [はい]ボタンをクリックします。

- 3 [OK]ボタンをクリックします。


6.2.10. 運転モードへの変更

- 1 [コントローラ]ー[動作モード]ー
[運転モード]を選択します。


2	[[はい]ボタンをクリックします。	
3	[[はい]ボタンをクリックします。	
4	[OK]ボタンをクリックします。	
5	[OK]ボタンをクリックします。	

6.3. コントローラの設定準備

コントローラの設定準備を行います。

6.3.1. 新規プロジェクトの作成

1 コントローラの電源を投入します。

2 Power PMAC IDE を起動します。

※起動時に、アクセス権確認用のダイアログが表示される場合、起動する選択を行ってください。

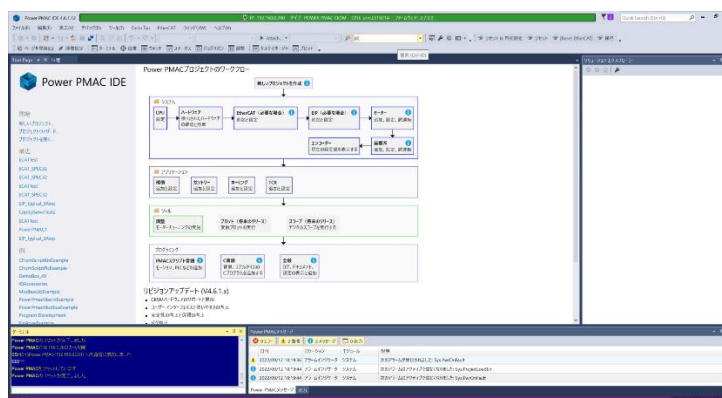


3 通信設定画面が表示されますので、接続先のコントローラの IP アドレスを指定し[接続]をクリックします。

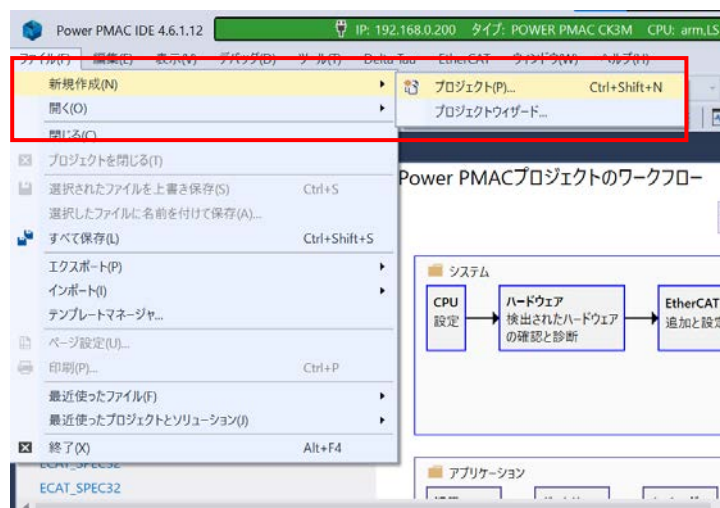
* コントローラのデフォルトの IP アドレスは” 192.168.0.200 ”です。

* 必要であれば、Windows の IP アドレスを” 192.168.0.X ”へ変更してください。

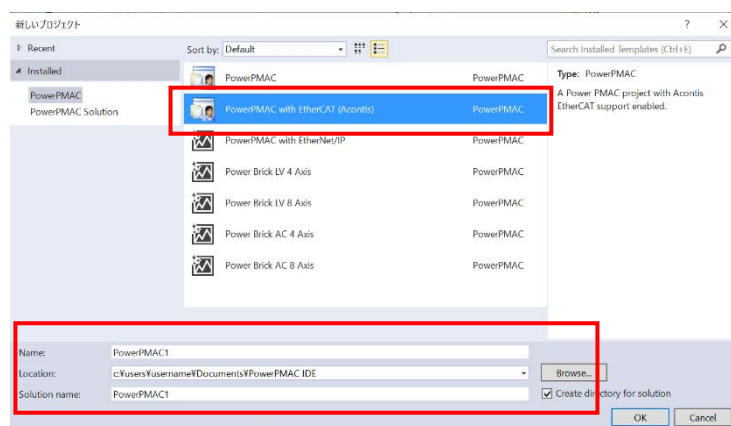
4 Power PMAC IDE が起動し、コントローラとオンラインの状態になります。



- 5 [ファイル]メニューの[新規]、[プロジェクト]を選択します。



- 6 任意のプロジェクト名、保存先を入力し、[OK]を選択します。



6.3.2. コントローラの初期設定

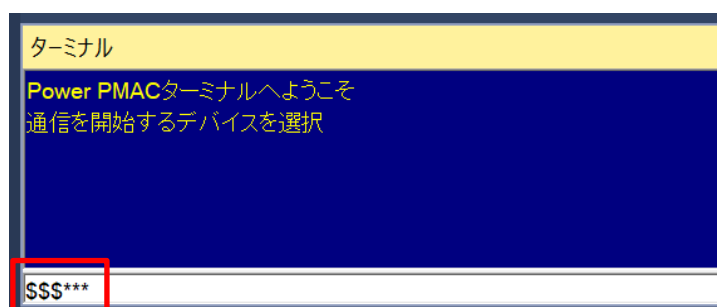
コントローラの初期設定を行います。



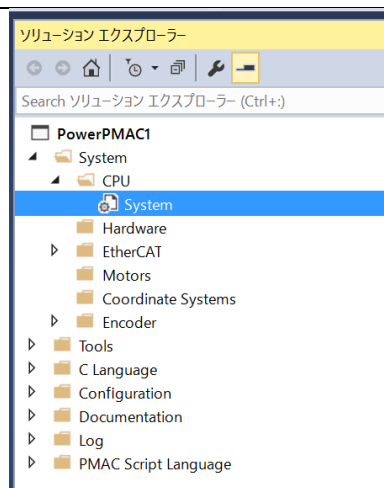
使用上の注意

初期設定により、メモリがすべてクリアされますので、必要なデータがコントローラ内に残っている場合は、データを保管してください。

- 1 ターミナルから[\$\$\$**]*コマンドをタイプし、コントローラを工場出荷状態にします。

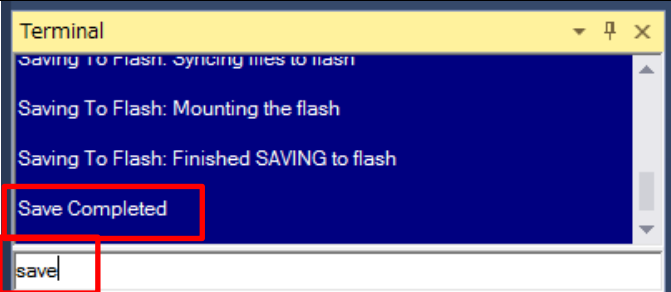
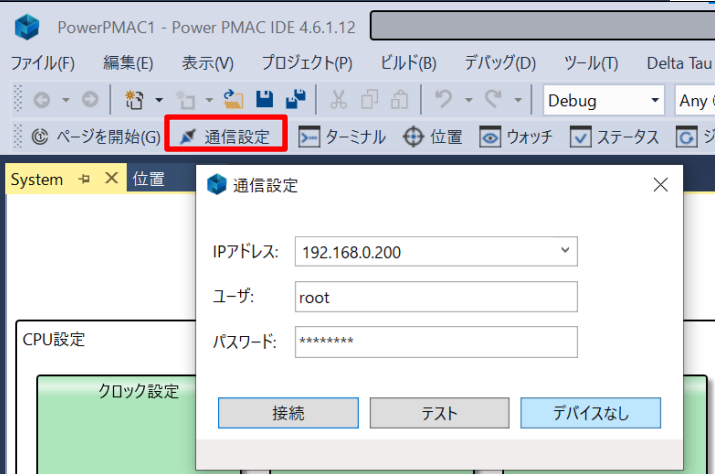


- 2 [ソリューションエクスプローラー]の[System]-[CPU]-[System]を選択します。



- 3 [クロック設定]を選択します。



- 4** サーボ周波数を設定します。
- サーボ周波数設定は 4kHz、2kHz、1kHz の中から選択します。
- ※本書では 1kHz に設定した例で説明します。
- 
- 5** [許可]ボタンをクリックします。
- 
- 6** サーボ周波数設定を変更した場合は、Power PMAC IDE のターミナルで[SAVE]コマンドをタイプします。
- 終了するとターミナルに”Save Complete”と表示されます。
- 
- 7** ツールバーの[通信設定]をクリックし、通信設定画面を表示します。
- 

8 通信設定画面で [デバイスなし] を選択します。

この操作でオフラインの状態になります。



The screenshot shows a dialog box titled '通信設定' (Communication Settings) with a close button (X) in the top right corner. It contains three input fields: 'IPアドレス' (IP Address) with a dropdown menu showing '192.168.0.200', 'ユーザ' (User) with the text 'root', and 'パスワード' (Password) with masked characters. At the bottom, there are three buttons: '接続' (Connect), 'テスト' (Test), and 'デバイスなし' (No Device). The 'デバイスなし' button is highlighted with a red rectangular border.

9 コントローラを再起動します。

設定したサーボ周波数が反映されます。

10 コントローラの起動の完了を待ち、ツールバーの[通信設定]をクリックし、通信設定画面を表示します。
通信設定画面で [接続]ボタンをクリックします。

この操作でオンラインの状態になります。



The screenshot shows the same '通信設定' (Communication Settings) dialog box as in step 8. The '接続' (Connect) button is now highlighted with a red rectangular border.

6.4. ESI ファイルのインストール

Power PMAC IDE にスレーブ用 ESI ファイルをインストールします。

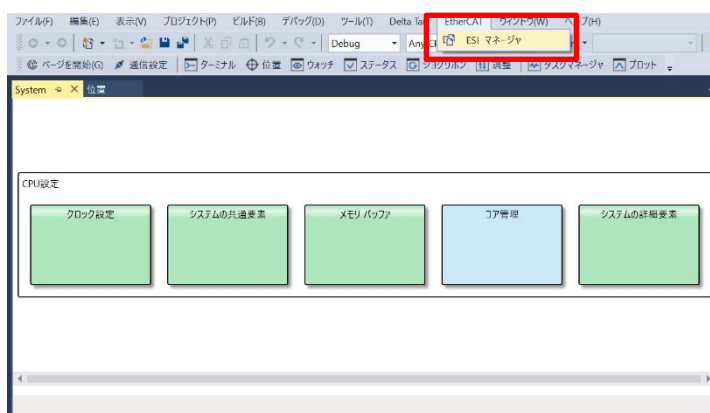


使用上の注意

本項記載の ESI ファイルを事前に準備してください。ESI ファイルはオムロン株式会社のホームページからダウンロードできます。

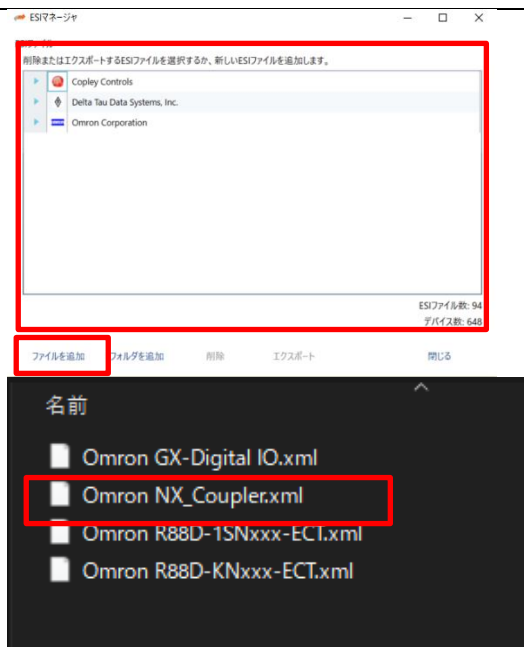
Home> 商品情報> 商品カテゴリ> FA システム機器> マシンオートメーションコントローラ> NX シリーズ I/O システム> 通信カプラユニット> NX-ECC の[カタログ/マニュアル /CAD/ソフトウェア]へ移動し、
[ソフトウェア]を選択してください。

- 1 Power PMAC IDE の[EtherCAT]メニューの[ESI マネージャ]を選択します。



- 2 ESI マネージャの ESI ファイルの一覧に Omron NX_Coupler.xml が登録されているかを確認します。

未登録の場合、[ファイルを追加]をクリックし、Omron NX_Coupler.xml を登録します。



- 3 [閉じる]をクリックし、ESI マネージャを閉じます。

6.5. EtherCAT 通信の設定

EtherCAT 通信の設定を行います。



使用上の注意

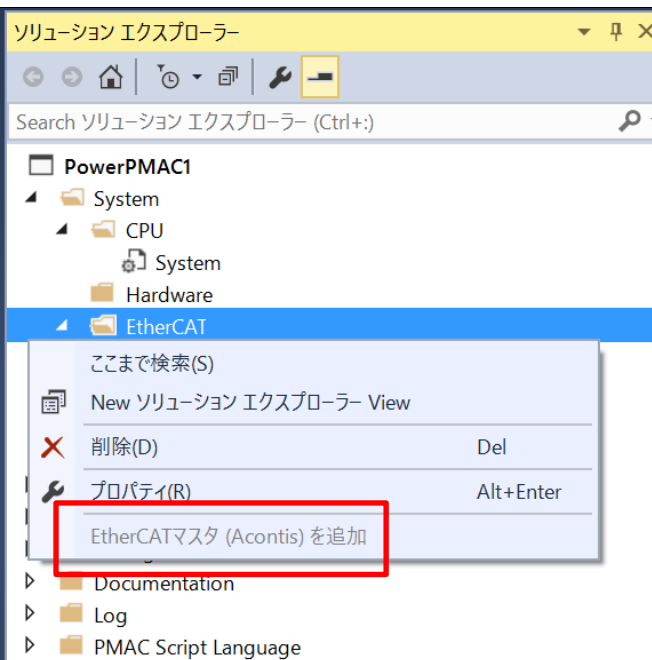
以降の手順を実施する前に、各機器が Ethernet ケーブルで接続されていることを確認ください。接続されていない場合、各機器の電源を OFF にしてから Ethernet ケーブルを接続してください。

6.5.1. EtherCAT マスタの通信設定

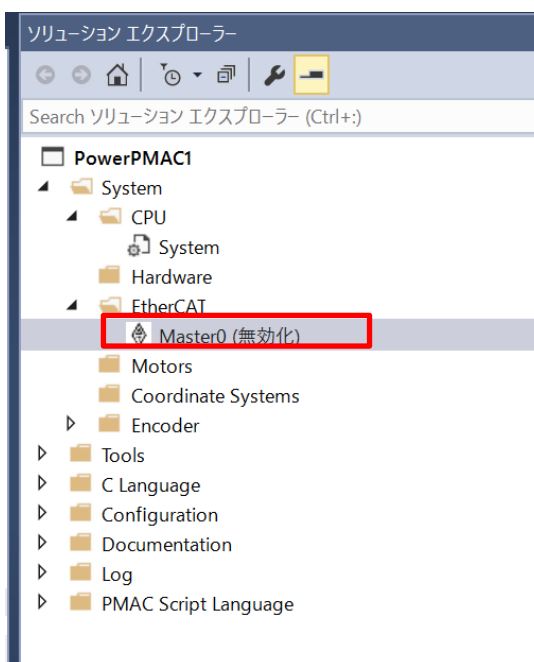
- 1** コントローラとスレーブ機器を Ethernet ケーブルで接続します。

※スレーブ機器の設定はスレーブ機器のマニュアルを参照し、設定してください。

- 2** [ソリューションエクスプローラー]の[System]-[EtherCAT]を選択し、右クリックメニューから、[EtherCAT マスタ (Acontis)を追加]を選択します。

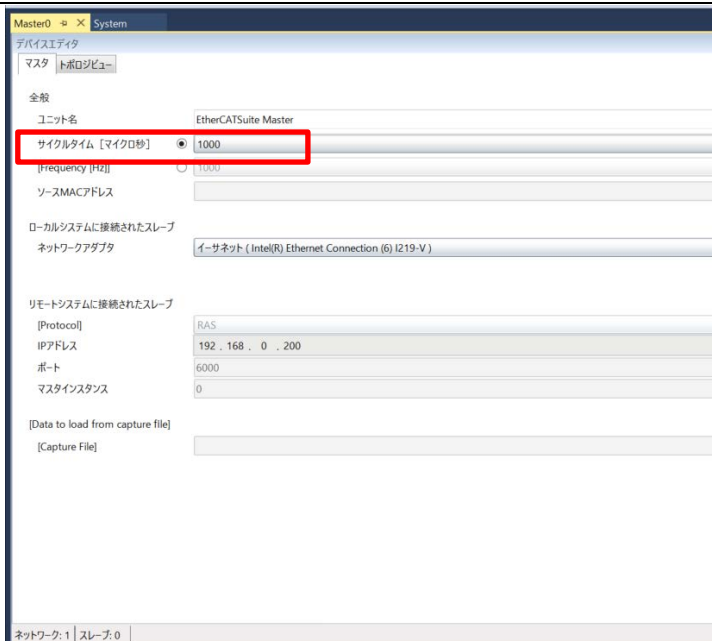


- 3 [ソリューションエクスプローラー]に[Master0 (無効化)]が追加されます。



- 4 [Master]画面の[サイクルタイム [us]]に通信周期を設定します。

* 通信周期は、コントローラのサーボ周期に合わせる必要があります。
本書では 1000us を設定します



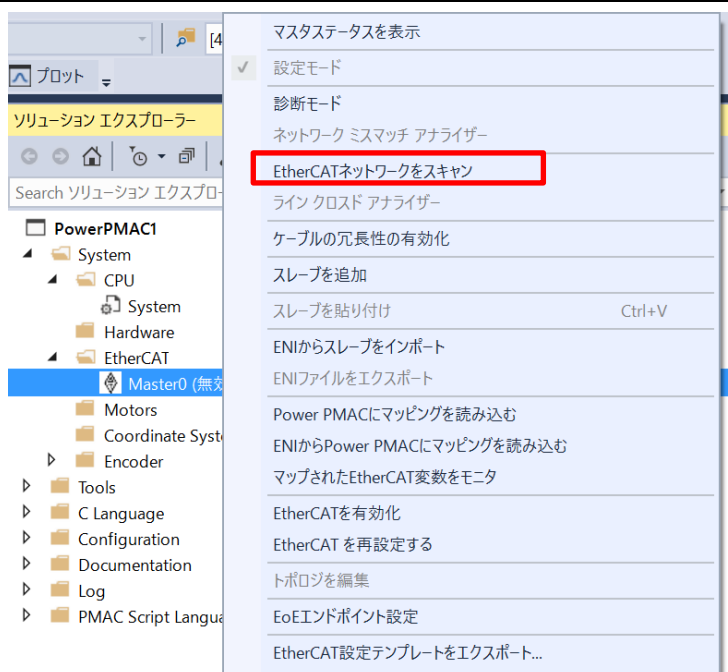
コントローラのサーボ周波数と通信周期の対応は以下の通りです。

4kHz : 250us

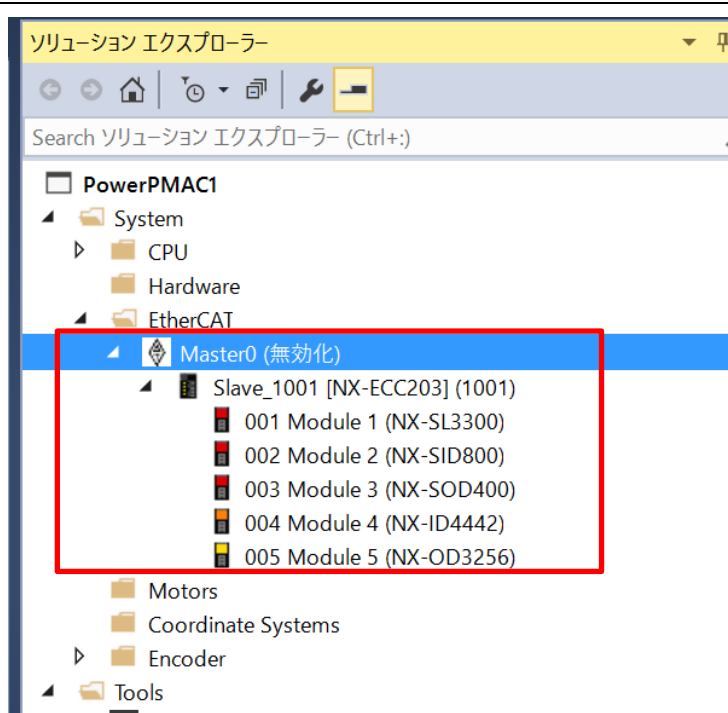
2kHz : 500us

1kHz : 1000us

- 5** [ソリューションエクスプローラー]の[Master0 (無効化)]上で右クリックし、メニューから[EtherCAT ネットワークをスキャン]を選択します。



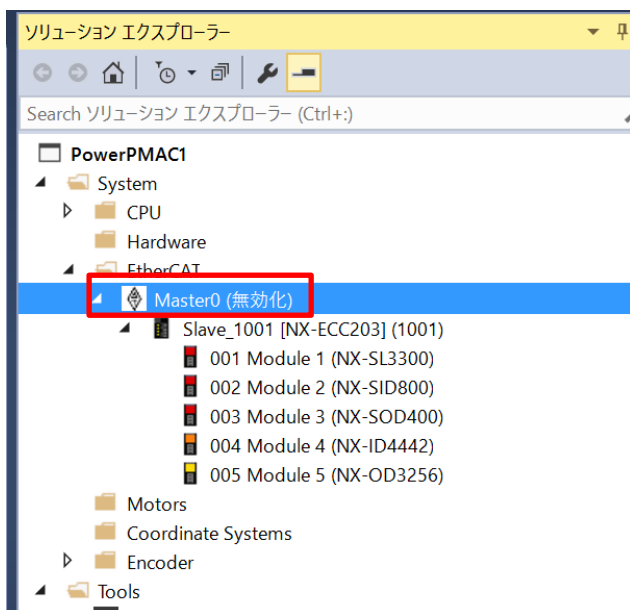
- 6** [ソリューションエクスプローラー]にスレーブが表示されることを確認します。



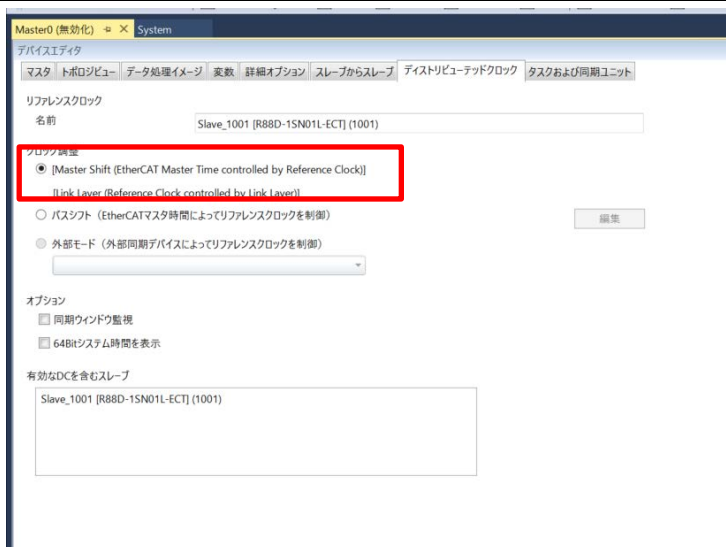
6.5.2. ディストリビュートクロックの設定

1 MasterのDC(Distributed Clocks)の設定

[ソリューションエクスプローラー]で
[Master0 (無効化)]を選択し、[ディストリビューテッドクロック]タブを表示します。



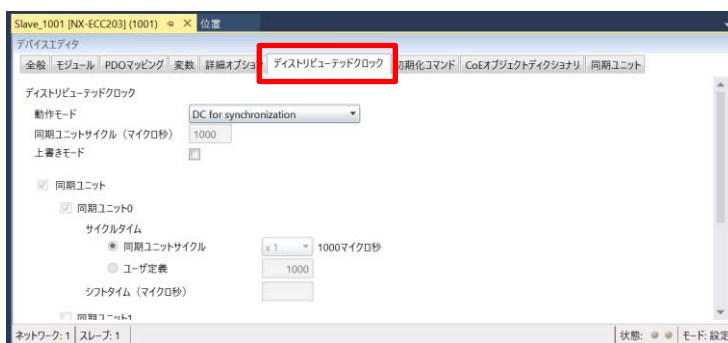
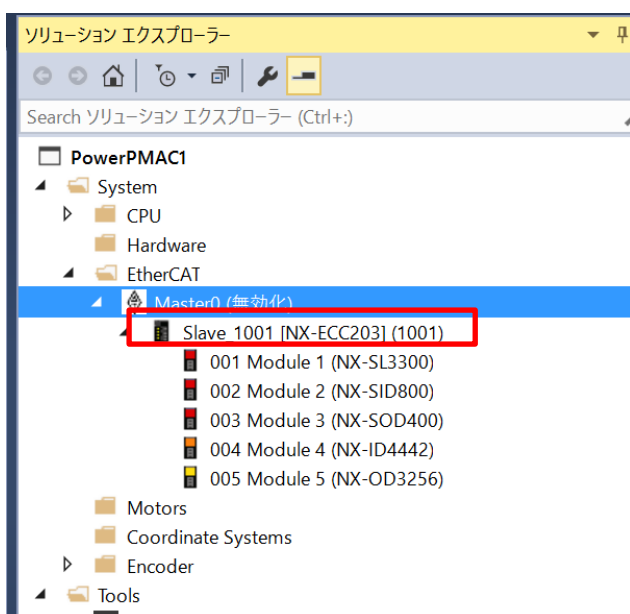
2 [Master Shift(EtherCAT Master Time controlled by Reference Clock)]を選択します。



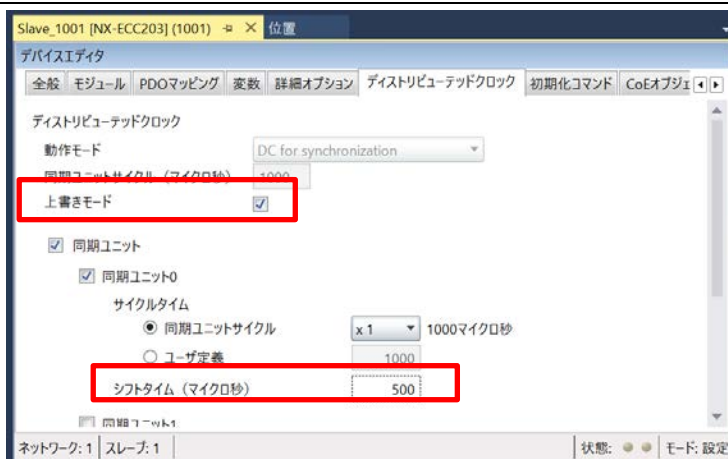
■DC モードで使用する場合

3 Slave の DC(Distributed Clock) の設定

[ソリューションエクスプローラー]で対象のスレーブを選択し、[ディストリビューテッドクロック]タブを表示します。



4 [上書きモード]をチェックし、[シフトタイム]を設定します。



コントローラのサーボ周波数と Shift Time の対応は以下の通りです。

4kHz : 125us

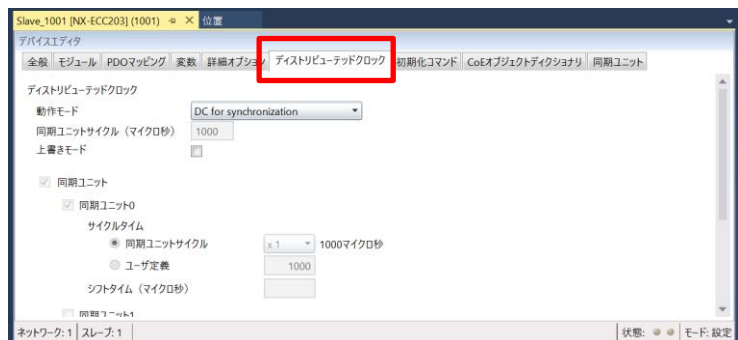
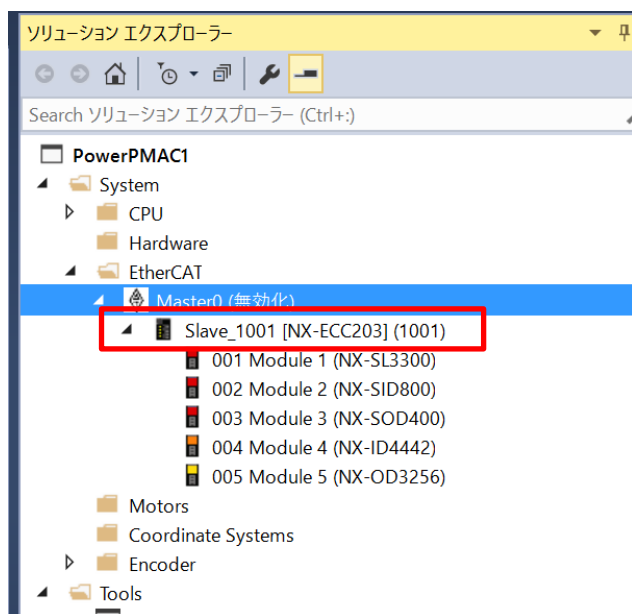
2kHz : 250us

1kHz : 500us

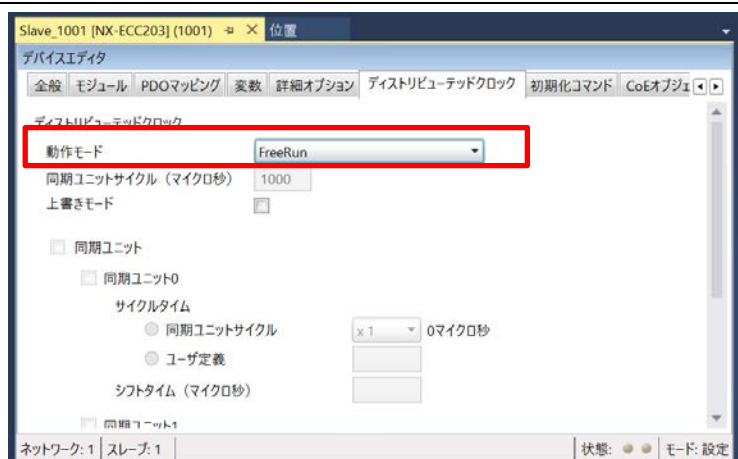
■Free Run モードで使用する場合

3 Slave の DC(Distributed Clock) の設定

[ソリューションエクスプローラー]で対象のスレーブを選択し、[ディストリビューテッドクロック]タブを表示します。

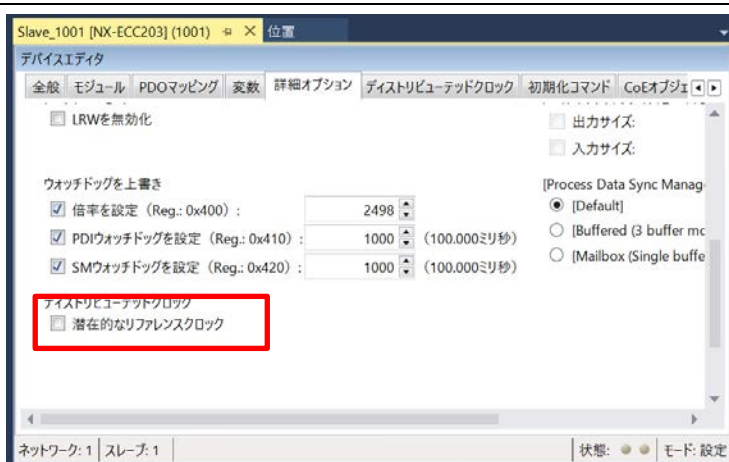


4 [動作モード]のドロップダウンリストから[Free Run]を選択します。



5

[詳細オプション]タブの[潜在的なリファレンスクロック]のチェックを OFF にします。



6.5.3. セーフティコントローラの変数設定

(1) カプラ I/O 割付の確認

「6.2.7 カプラ I/O 割付の出力」で保存した ZIP ファイルを解凍し、展開された「CouplerMemoryMap.xml」を Internet Explorer で開き、内容を確認します。

(2) Input Data の設定

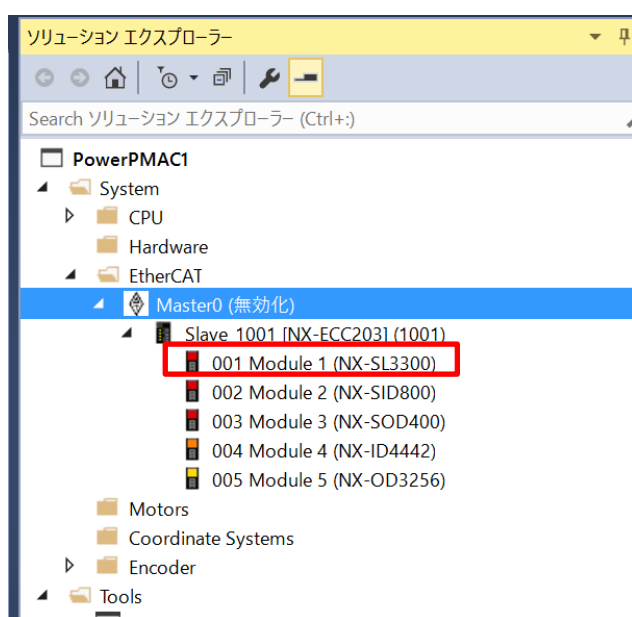
以下の入力データを登録します。

- ・ Slot1(NX-SL3500)Input Data Set1
- ・ Slot1(NX-SL3500)Input Data Set2

1

[ソリューションエクスプローラ]でセーフティコントローラを選択します。

[変数]タブを表示します



2

[Slot1(NX-SL3500)Input Data Set1]

[Node1/Unit2] (NX-SID800)の登録

[変数]タブの[新規]をクリックし、右記の4つの変数を登録します。

FSoE Slave CMD	#x6020:01	USINT
----------------	-----------	-------

Group: Module 1(NX-SL3500).Input Data Set 1

Datatype: USINT

Count: 1

Safety Input 1st Word	#x6021:01	UINT
FSoE Slave CRC_0	#x6020:03	UINT
FSoE Slave Conn_ID	#x6021:02	UINT

Group: Module 1(NX-SL3500).Input Data Set 1

Datatype: UINT

Count: 3

3

[Slot1(NX-SL3500)Input Data Set1]

[Node1/Unit3] (NX-SOD400)の登録

[Variables]タブの[New]をクリックし、右記の4つの変数を登録します。

FSoE Slave CMD	#x6040:01	USINT
Safety Input 1st Byte	#x6041:01	USINT

Group: Module 1(NX-SL3500).Input Data Set 1

Datatype : USINT

Count : 2

FSoE Slave CRC_0	#x6040:03	UINT
FSoE Slave Conn_ID	#x6040:02	UINT

Group: Module 1(NX-SL3500).Input Data Set 1

Datatype : UINT

Count : 2

4

[Slot1(NX-SL3500)Input Data Set1]

[Padding]の登録

[Variables]タブの[New]をクリックし、右記の変数を登録します。

Group: Module 1(NX-SL3500).Input Data Set 1

Datatype : USINT

Count : 1

- 5** [Slot1(NX-SL3500)Input Data Set2]
[Safety CPU Status] の登録

[Variables]タブの[New]をクリックし、右記の変数を登録します。

Safety CPU Status	#x6004:01	UINT
-------------------	-----------	------

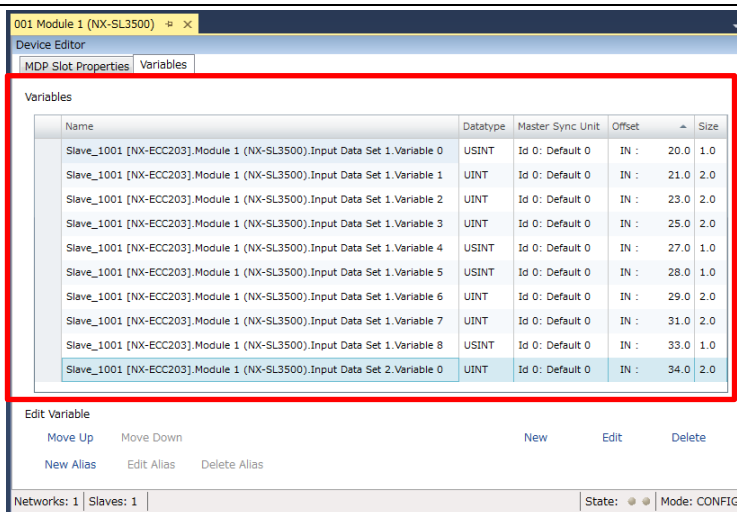
Group: Module 1(NX-SL3500).Input Data Set 2

Datatype: UINT

Count: 1

- 6** Input Data の確認

「Variables」タブの設定（Input）が正しいことを確認します。



Name	Datatype	Master Sync Unit	Offset	Size
Slave_1001 [NX-ECC203].Module 1 (NX-SL3500).Input Data Set 1.Variable 0	USINT	Id 0: Default 0	IN : 20.0	1.0
Slave_1001 [NX-ECC203].Module 1 (NX-SL3500).Input Data Set 1.Variable 1	UINT	Id 0: Default 0	IN : 21.0	2.0
Slave_1001 [NX-ECC203].Module 1 (NX-SL3500).Input Data Set 1.Variable 2	UINT	Id 0: Default 0	IN : 23.0	2.0
Slave_1001 [NX-ECC203].Module 1 (NX-SL3500).Input Data Set 1.Variable 3	UINT	Id 0: Default 0	IN : 25.0	2.0
Slave_1001 [NX-ECC203].Module 1 (NX-SL3500).Input Data Set 1.Variable 4	USINT	Id 0: Default 0	IN : 27.0	1.0
Slave_1001 [NX-ECC203].Module 1 (NX-SL3500).Input Data Set 1.Variable 5	USINT	Id 0: Default 0	IN : 28.0	1.0
Slave_1001 [NX-ECC203].Module 1 (NX-SL3500).Input Data Set 1.Variable 6	UINT	Id 0: Default 0	IN : 29.0	2.0
Slave_1001 [NX-ECC203].Module 1 (NX-SL3500).Input Data Set 1.Variable 7	UINT	Id 0: Default 0	IN : 31.0	2.0
Slave_1001 [NX-ECC203].Module 1 (NX-SL3500).Input Data Set 1.Variable 8	USINT	Id 0: Default 0	IN : 33.0	1.0
Slave_1001 [NX-ECC203].Module 1 (NX-SL3500).Input Data Set 2.Variable 0	UINT	Id 0: Default 0	IN : 34.0	2.0

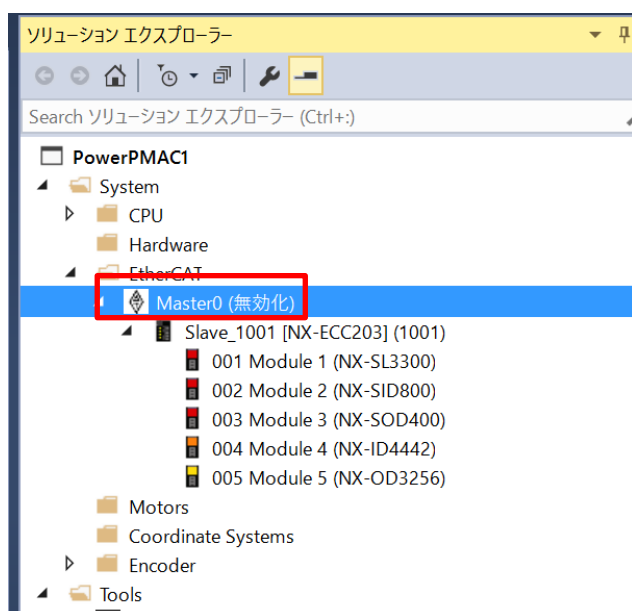
(3) Output Data の設定

以下の出力データを登録します。

- ・ Slot1(NX-SL3500)Output Data Set1
- ・ Slot1(NX-SL3500)Output Data Set2

7 Power PMAC IDE の[ソリューションエクスプローラー]でセーフティコントローラを選択します。

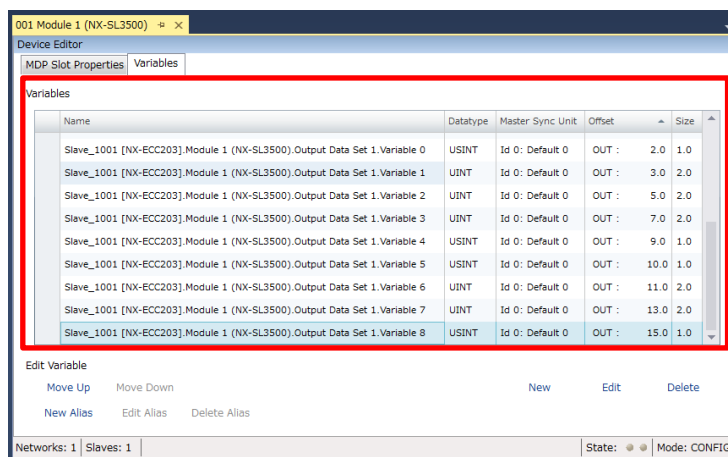
[変数]タブを表示します



8	[Slot1(NX-SL3500)Output Data Set1] [Node1/Unit2] (NX-SID800)の登録 [Variables]タブの[New]をクリックし、右記の4つの変数を登録します。	<table border="1"> <tr> <td>FSoE Master CMD</td><td>#x7020:01</td><td>USINT</td></tr> </table> Group: Module 1(NX-SL3500).Output Data Set 1 Datatype: USINT Count: 1 <table border="1"> <tr> <td>Safety Output 1st Word</td><td>#x7021:01</td><td>UINT</td></tr> <tr> <td>FSoE Master CRC_0</td><td>#x7020:03</td><td>UINT</td></tr> <tr> <td>FSoE Master Conn_ID</td><td>#x7020:02</td><td>UINT</td></tr> </table> Group: Module 1(NX-SL3500).Output Data Set 1 Datatype: UINT Count: 3	FSoE Master CMD	#x7020:01	USINT	Safety Output 1st Word	#x7021:01	UINT	FSoE Master CRC_0	#x7020:03	UINT	FSoE Master Conn_ID	#x7020:02	UINT
FSoE Master CMD	#x7020:01	USINT												
Safety Output 1st Word	#x7021:01	UINT												
FSoE Master CRC_0	#x7020:03	UINT												
FSoE Master Conn_ID	#x7020:02	UINT												
9	[Slot1(NX-SL3500)Output Data Set1] [Node1/Unit3] (NX-SOD400)の登録 [Variables]タブの[New]をクリックし、右記の4つの変数を登録します。	<table border="1"> <tr> <td>FSoE Master CMD</td><td>#x7040:01</td><td>USINT</td></tr> <tr> <td>Safety Output 1st Byte</td><td>#x7041:01</td><td>USINT</td></tr> </table> Group: Module 1(NX-SL3500).Output Data Set 1 Datatype : USINT Count : 2 <table border="1"> <tr> <td>FSoE Master CRC_0</td><td>#x7040:03</td><td>UINT</td></tr> <tr> <td>FSoE Master Conn_ID</td><td>#x7041:02</td><td>UINT</td></tr> </table> Group: Module 1(NX-SL3500).Output Data Set 1 Datatype : UINT Count : 2	FSoE Master CMD	#x7040:01	USINT	Safety Output 1st Byte	#x7041:01	USINT	FSoE Master CRC_0	#x7040:03	UINT	FSoE Master Conn_ID	#x7041:02	UINT
FSoE Master CMD	#x7040:01	USINT												
Safety Output 1st Byte	#x7041:01	USINT												
FSoE Master CRC_0	#x7040:03	UINT												
FSoE Master Conn_ID	#x7041:02	UINT												
10	[Slot1(NX-SL3500)Output Data Set1] [Padding]の登録 [Variables]タブの[New]をクリックし、右記の変数を登録します。	Group: Module 1(NX-SL3500).Output Data Set 1 Datatype : USINT Count : 1												
11	[Slot1(NX-SL3500)Output Data Set2] ※「Output Data Set2」は未使用のため設定不要です。													

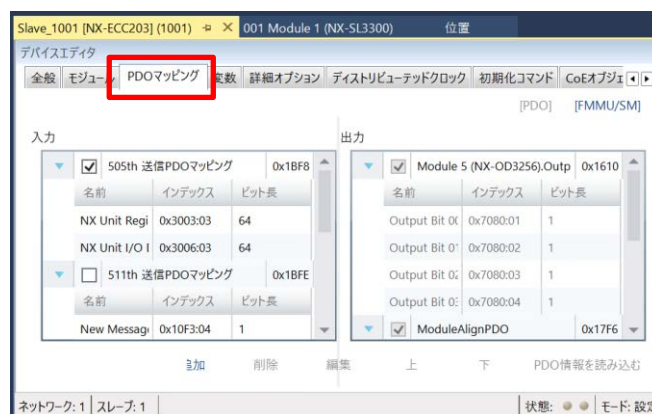
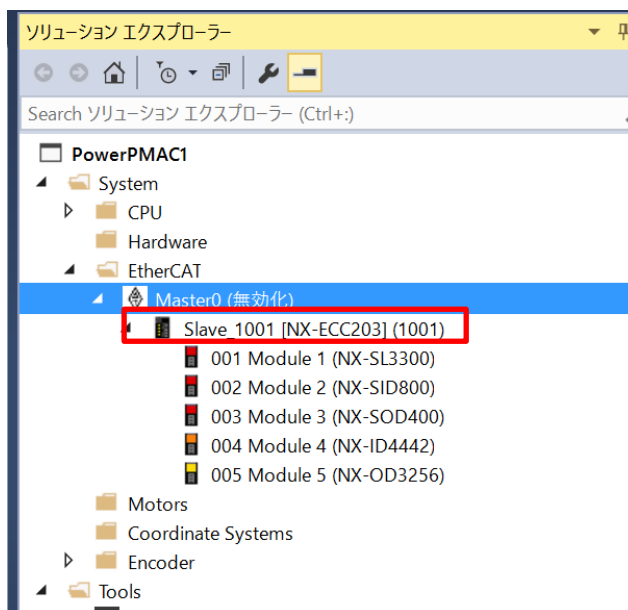
12 Output Data の確認

「Variables」タブの設定
(Output)が正しいことを確認し
ます。



6.5.4. PDO マッピングの設定

- 1 [ソリューションエクスプローラ]で対象のスレーブを選択し、[PDO マッピング]タブを表示します。



2 PDO マッピング(Inputs)の設定

Inputs 欄にあるチェックボックスを確認します。

※Input 欄にあるデータを使用しない場合は、現在のチェックボックスからマークを外します。

入力

▼	☒	505th 送信PDOマッピング	0x1BF8
	名前	インデックス	ビット長
	NX Unit Regi	0x3003:03	64
	NX Unit I/O I	0x3006:03	64
▼	☐	511th 送信PDOマッピング	0x1BFE
	名前	インデックス	ビット長
	New Message	0x10F3:04	1
	---	0x0000:00	15
▼	☒	512th 送信PDOマッピング	0x1BFF

3 PDO マッピング(Outputs)の設定

Outputs 欄にあるチェックボックスを確認します。

※Output 欄にあるデータを使用
したくない場合は、現在のチェ
ックボックスからマークを外し
ます。

出力

▼	☒	Module 5 (NX-OD3256).Outp	0x1610	▲
		名前	インデックス	ビット長
		Output Bit 00	0x7080:01	1
		Output Bit 01	0x7080:02	1
		Output Bit 02	0x7080:03	1
		Output Bit 03	0x7080:04	1
▼	☒	ModuleAlignPDO		0x17F6
		名前	インデックス	ビット長
		---	0x0000:00	12

6.5.5. カプラ I/O と変数の割付

(1) カプラ I/O 割付の確認

「6.2.7 カプラ I/O 割付の出力」で保存した ZIP ファイルを解凍し、展開された「CouplerCopyInfo.xml」を Internet Explorer で開き、内容を確認します。

(2) Input Data の設定

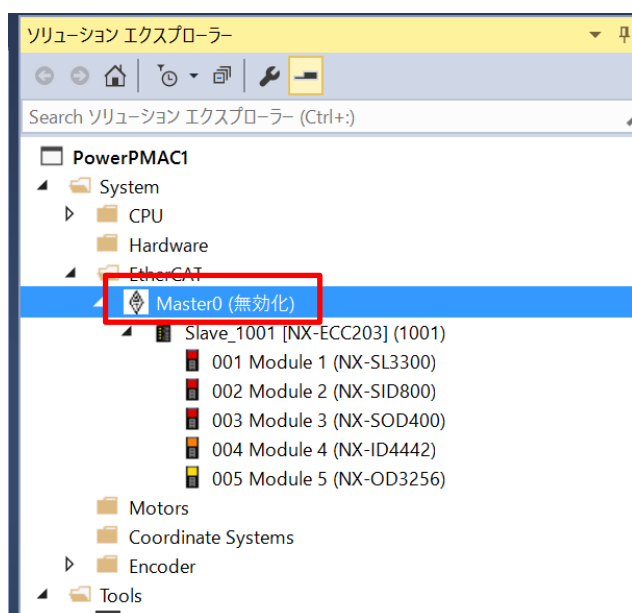
以下の項目を割付けます。

- ・ [Module 1 (NX-SL3500).Input Data Set 1]と[Module 2 (NX-SID800).Output Data Set 1]
- ・ [Module 1 (NX-SL3500).Input Data Set 1]と[Module 3 (NX-SOD400).Output Data Set 1]

コピー元ビットオフセット(160bit)からコピー先ビットオフセット(128bit)へビットサイズ(56bit)コピーします。

1 [ソリューションエクスプローラー]で[Master0 (無効化)]を選択します。

[Slave to Slave]タブを表示します



- 2** Inputs [Module 1 (NX-SL3500).Input Data Set 1] の変数と Outputs[Module 2 (NX-SID800).Output Data Set 1] に割り付けます。

「(NX-SL3500).Input Data Set 1」の項目を選択後、対応する「(NX-SID800).Output Data Set 1」の項目を選択し、[>>]をクリックします。

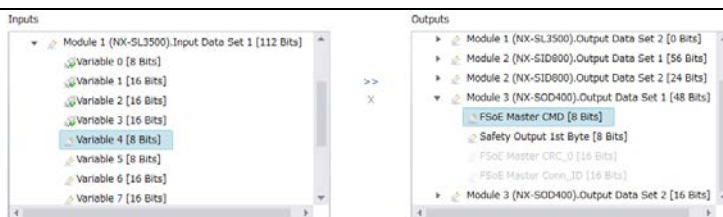


以下の項目を割り付けます。

Inputs	Outputs
Variable 0	FSoE Master CMD
Variable 1	Safety Output 1st Word
Variable 2	FSoE Master CRC_0
Variable 3	FSoE Master Conn_ID

- 3** Inputs [Module 1 (NX-SL3500).Input Data Set 1] の変数と Outputs[Module 3 (NX-SOD400).Output Data Set 1]に割り付けます。

「(NX-SL3500).Input Data Set 1」の項目を選択後、対応する「(NX-SOD400).Output Data Set 1」の項目を選択し、[>>]をクリックします。



以下の項目を割り付けます。

Inputs	Outputs
Variable 4	FSoE Master CMD
Variable 5	Safety Output 1st Word
Variable 6	FSoE Master CRC_0
Variable 7	FSoE Master Conn_ID

※Variable 8 は割付不要です。

(3) Output Data の設定

以下の項目を割付けます。

- ・ [Module 2 (NX-SID800).Input Data Set 1]と[Module 1 (NX-SL3500).Output Data Set 1]
- ・ [Module 3 (NX-SOD400).Input Data Set 1]と[Module 1 (NX-SL3500).Output Data Set 1]

4 Inputs [Module 2 (NX-SID800).Input Data Set 1]の変数と Outputs[Module 1 (NX-SL3500).Output Data Set 1]に割り付けます。

「(NX-SID800).Input Data Set 1」の項目を選択後、対応する「(NX-SL3500).Output Data Set 1」の項目を選択し、[>>]をクリックします。

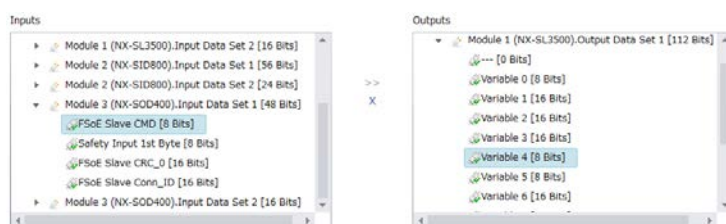


以下の項目を割り付けます。

Inputs	Outputs
FSoE Slave CMD	Variable 0
Safety Input 1st Word	Variable 1
FSoE Slave CRC_0	Variable 2
FSoE Slave Conn_ID	Variable 3

5 Inputs [Module 3 (NX-SOD400).Input Data Set 1]の変数と Outputs[Module 1 (NX-SL3500).Output Data Set 1]に割り付けます。

「(NX-SOD400).Input Data Set 1」の項目を選択後、対応する「(NX-SL3500).Output Data Set 1」の項目を選択し、[>>]をクリックします。



以下の項目を割り付けます。

Inputs	Outputs
FSoE Slave CMD	Variable 4
Safety Input 1st Word	Variable 5
FSoE Slave CRC_0	Variable 6
FSoE Slave Conn_ID	Variable 7

※Variable 8 は割付不要です。

6.5.6. EtherCAT ネットワーク構成ファイルの作成

1

[ソリューションエクスプローラー]の[System] - [EtherCAT]-[Master0(無効化)]上で右クリックし、メニューから[Load Mapping to PowerPMAC]を選択します。

ソリューション エクスプローラー

Search ソリューション エクスプローラー

CPU

Hardware

EtherCAT

Master0 (無効化)

Slave_1001 [N]

001 Modu

002 Modu

003 Modu

004 Modu

005 Modu

Motors

Coordinate Systems

Encoder

Tools

Tune

C Language

Configuration

Documentation

Log

PMAC Script Language

診断シート

ネットワーク ミスマッチ アナライザー

EtherCATネットワークをスキャン

ラインクロスト アナライザー

ケーブルの冗長性の有効化

スレーブを追加

スレーブを貼り付け Ctrl+V

ENIからスレーブをインポート

ENIファイルをエクスポート

Power PMACにマッピングを読み込む

ENIからPower PMACにマッピングを読み込む

マップされたEtherCAT変数をモニタ

EtherCATを有効化

EtherCAT を再設定する

トポロジを編集

EoEエンドポイント設定

EtherCAT設定テンプレートをエクスポート...

EtherCAT 設定テンプレートをインポート...

EtherCAT 設定テンプレートを削除

2

[ソリューションエクスプローラー]の[Configuration]の下に、eni.xml が追加されます。

ソリューション エクスプローラー

Search ソリューション エクスプローラー (Ctrl+;)

005 Module 5 (NX-OD3256)

Motors

Coordinate Systems

Encoder

Tools

Tune

C Language

Configuration

ECATConfig.cfg

eni.xml

pp_custom_save.cfg

pp_custom_save.tpl

pp_disable.txt

pp_inc_disable.txt

pp_inc_startup.txt

pp_save.cfg

pp_startup.txt

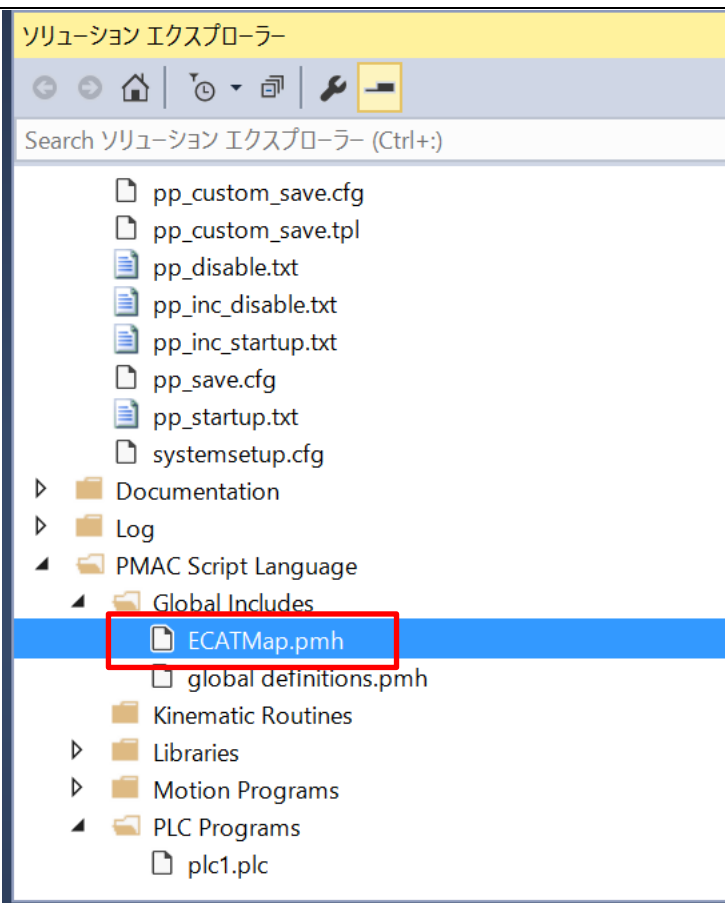
systemsetup.cfg

Documentation

Log

49

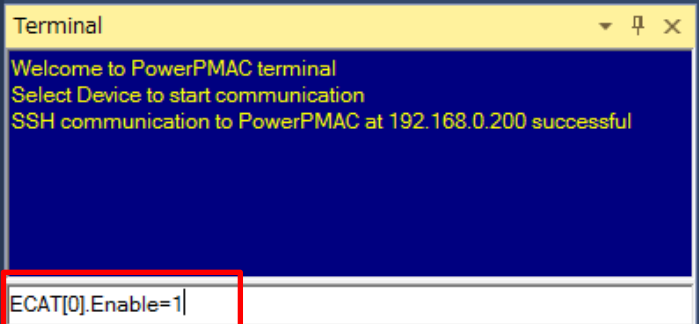
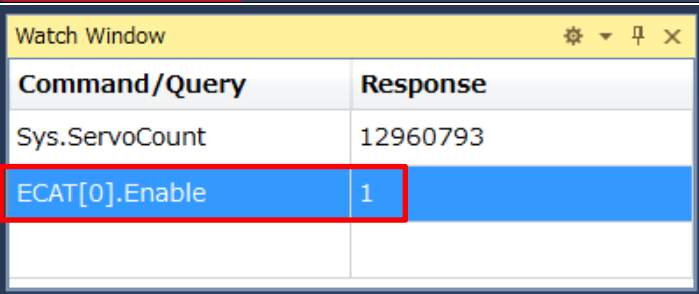
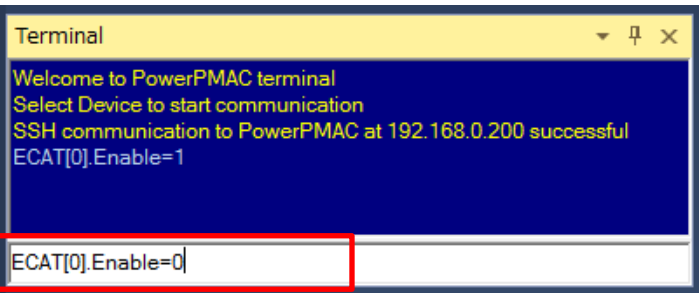
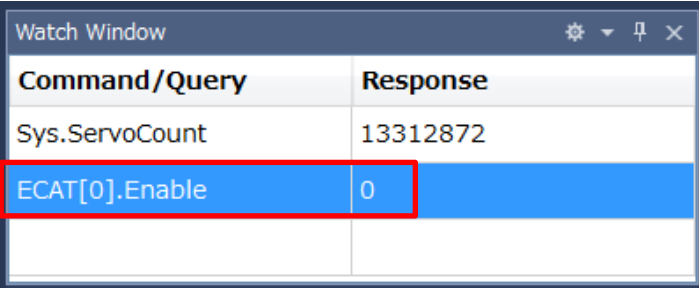
- 3** [ソリューションエクスプローラー]の[PMAC Script Language]-[Global Includes]の下に、ECATMap.pmh が追加されます。



6.6. コントローラの設定

6.6.1. EtherCAT 通信の確認

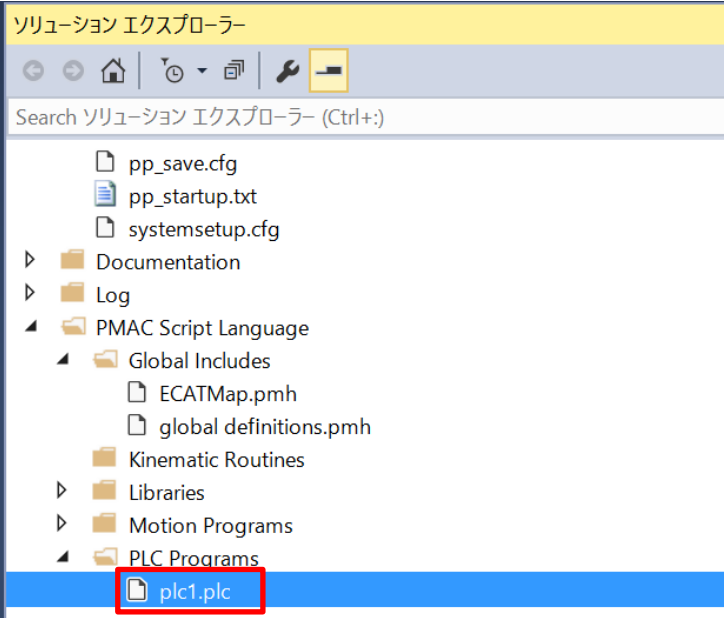
以下の手順で EtherCAT が通信できることを確認します。

1	ターミナルから “ECAT[0].Enable=1” コマンドを 実行し、EtherCAT 通信を開始し ます。	
2	ターミナルもしくはウォッチウ ィンドウにて ECAT[0].Enable の 値が 1 になることを確認します。 ※OP モードになり EtherCAT 通 信行っている状態です。	
3	正しく通信できることを確認し たら、ターミナルから “ECAT[0].Enable=0” コマンドを 実行し、EtherCAT 通信を停止し ます。	
4	ターミナルもしくはウォッチウ ィンドウにて ECAT[0].Enable の 値が 0 になることを確認します。	

6.6.2. ユーザプログラムの作成

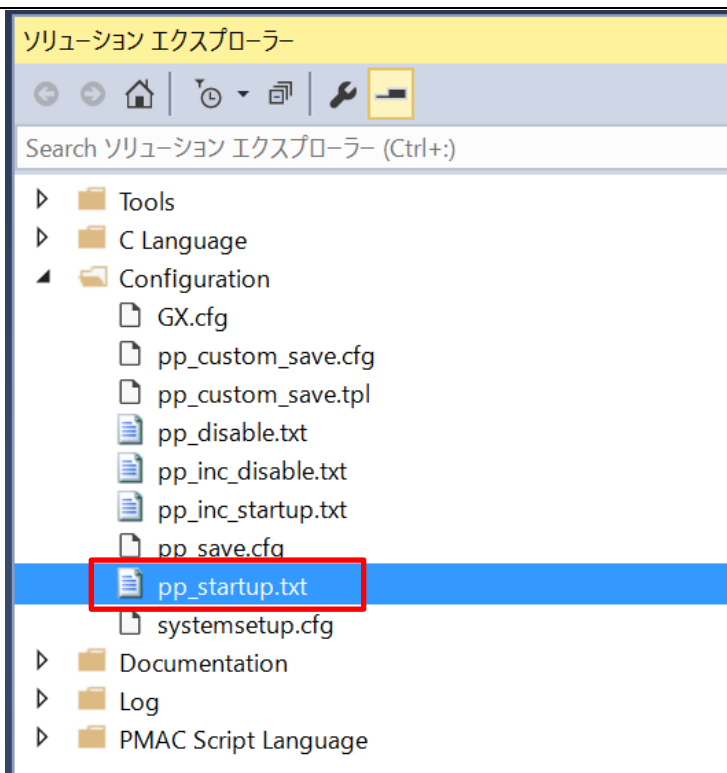
動作確認用のプログラムを作成します。

動作確認プログラムには、専用言語を使用します。詳細は「Power PMAC ユーザーズマニュアル」および「Power PMAC ソフトウェアリファレンス マニュアル」を参照してください。

1 [ソリューションエクスプローラー]で [PMAC Script Language]- [PLC Programs]- [plc1.plc]を開きます。	
2 [plc1.plc]タブのプログラミング エリアに、右記のプログラムを 書き込みます。 このプログラム例は、 NX-OD3256 の出力表示 LED を5 秒ごとに点滅させます。 ※PDO マッピングがデフォルト 設定の場合の例です。PDO マッ ピング変更時は「Slave_0～」の 箇所を変更してください。	<pre>open plc 1 while(Sys.EcatMasterReady == 0){} ECAT[0].Enable = 1 P1000 = Sys.Time + 5 while(P1000 > Sys.Time){} Slave_1001_NX_ECC203_1001_7080_1_OutputBit00 = 1 P1000 = Sys.Time + 5 while(P1000 > Sys.Time){} Slave_1001_NX_ECC203_1001_7080_1_OutputBit00 = 0 close</pre>

3 ユーザプログラムの起動設定

[ソリューションエクスプローラー]で [Configuration]
-[pp_startup.txt]を開きます。



4 [pp_startup.txt]タブのプログラミングエリアに、右記のプログラムを最終行に追記します。

[pp_startup.txt]はコントローラの起動時に自動的に実行されます。

記述例では、PLC1 のスクリプトを実行します。

```
enable plc 1;
```

6.6.3. プロジェクトデータの転送

作成したプロジェクトデータをコントローラに転送します。

警告

Power PMAC IDE からユーザプログラム、「構成／設定」のデータを転送するときは、装置や機械が想定外の動作をする恐れがあります。
プロジェクトデータを転送するときは、転送先スレーブの安全を確認してから行ってください。



注意

プロジェクトデータを転送すると、コントローラにリスタートが発生し、スレーブとの通信が途絶えます。また、EtherCAT ネットワーク構成により、通信が途絶える時間も異なります。
プロジェクトデータを転送するときは、「スレーブ設定」が装置に影響を与えないことを確認してから行ってください。



- 1** ターミナルもしくはウォッチウィンドウにて ECAT[0].Enable の値が 0 であることを確認します。

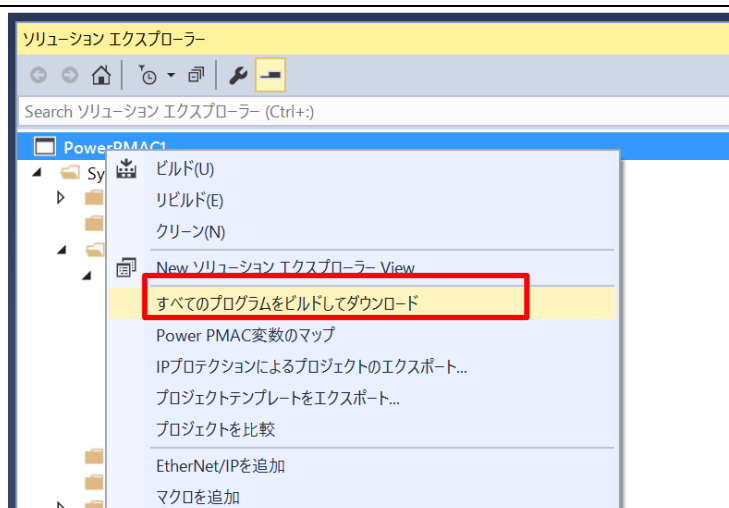
値が 1 であれば、ターミナルから
ECAT[0].Enable=0
コマンドを実行し、EtherCAT 通信を停止します。

Command/Query	Response
Sys.ServoCount	13312872
ECAT[0].Enable	0

- 2** プロジェクトのダウンロード

IDE の画面右上の[ソリューションエクスプローラー]のプロジェクト名を右クリックし、メニューから[すべてのプログラムをビルドしてダウンロード]を選択し、ビルド&ダウンロードを実行します。

※転送したプロジェクトは、まだコントローラに保存されていません。
コントローラの電源を OFF にすると、転送したプロジェクトは破棄されます。



3 出力で異常がないことを確認します。

※転送が失敗した場合は、出力でエラーの内容を確認してください。

プログラムのエラーであればプログラムを見直してください。

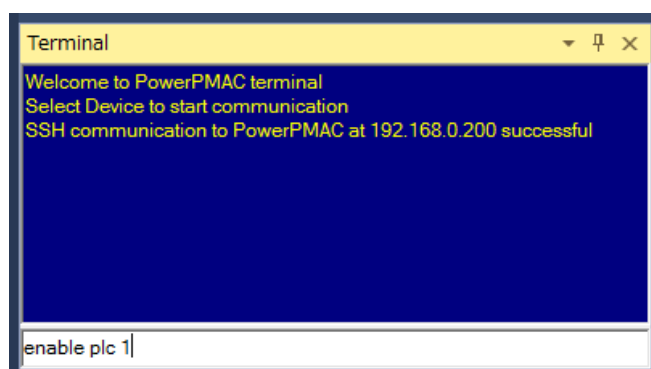
EtherCAT の設定に関連するものであれば、6.5. EtherCAT 通信の設定に戻り設定に誤りがないかを確認してください。

4 ダウンロードが成功すると、プログラムが実行されます。

EtherCAT 通信が OP 状態となります。NX-OD5121 の出力表示 LED が 5 秒ごとに点滅することを確認します。3 回目の点灯で NX-SOD400 の LED が点灯することを確認します。

※点滅しない場合は、ターミナルもしくはウォッチウィンドウにて ECAT[0].Enable の値が 1 であることを確認してください。値が 0 の場合は、ターミナルから以下のコマンドを実行します。

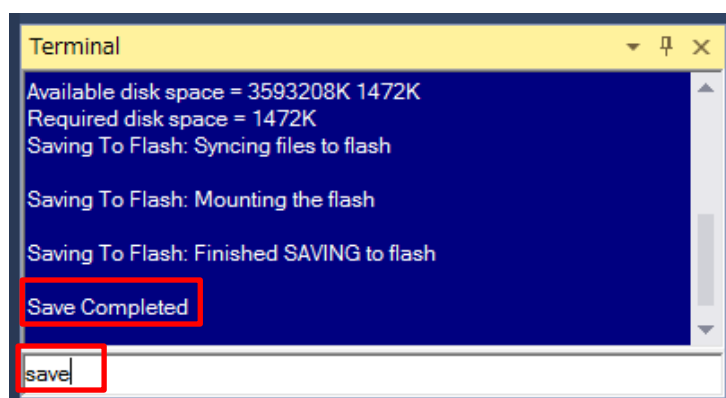
enable plc 1



5 正しく動作することを確認後、プロジェクトをコントローラへ保存します。

ターミナルから "save" コマンドを実行します。

※save コマンドの実行により、ダウンロードしたプロジェクトをコントローラ内に記憶します。この操作で、コントローラの電源 ON 時に自動実行される設定を保存します。



7. 付録 プロジェクトの保存と読出し

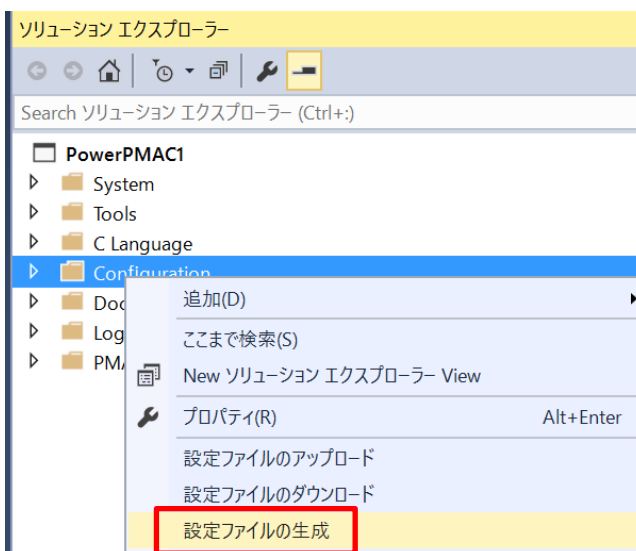
Power PMAC IDE のプロジェクトをパソコンへ保存し、再度利用する手順について説明します。

7.1. プロジェクトの保存

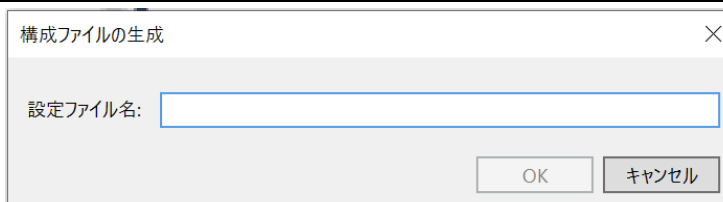
1 Configuration File の作成

変更したパラメータをプロジェクトに保存するために、Configuration File を作成します。

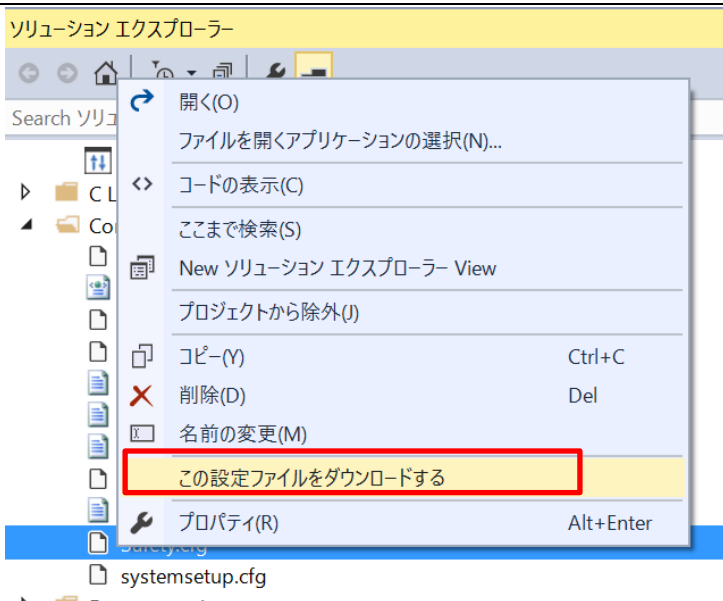
[ソリューションエクスプローラー]の[Configuration]上で右クリックし、メニューから[設定ファイルの設定]を選択します。Configuration File が [Configuration]に追加されます。



2 ファイル名をテキストボックスに入力し、[OK]を選択します。



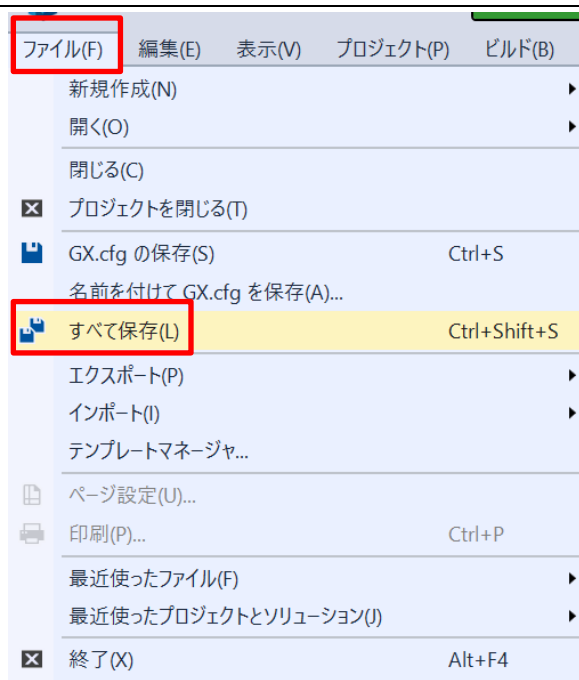
3 Configuration File 上で右クリックし、メニューから[この設定ファイルをダウンロードする]を選択し、ダウンロード対象に含めます。



4

プロジェクトの保存

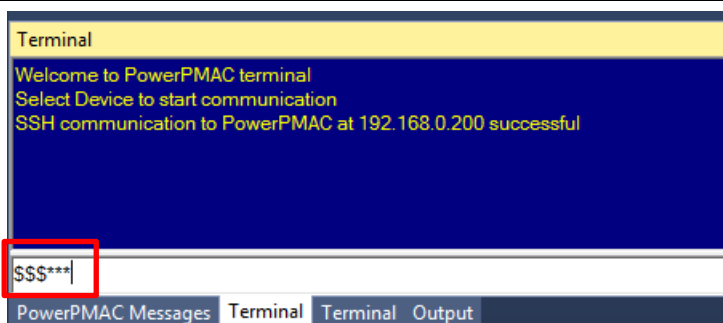
ファイルメニューの[すべて保存]を実行し、プロジェクトをパソコンへ保存します。



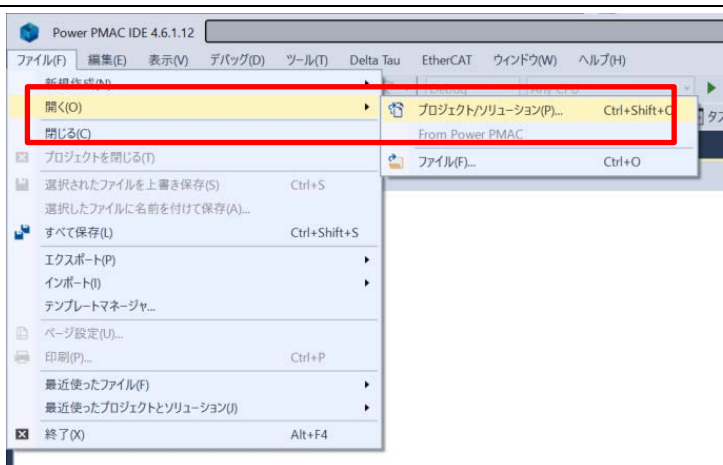
7.2. プロジェクトの読出しとダウンロード

1 Power PMAC IDE を起動し、コントローラへ接続します。

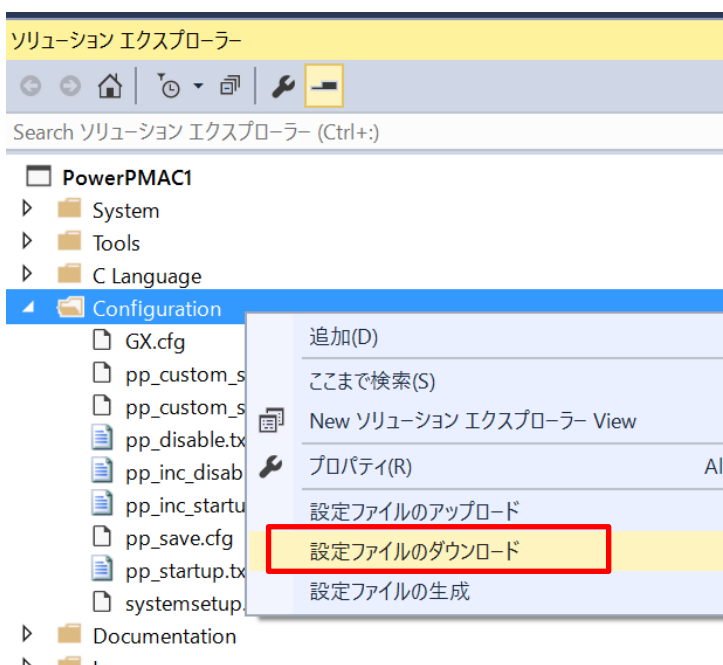
2 ターミナルから「\$\$\$***」コマンドをタイプし、コントローラの設定を工場出荷状態へ戻します。



3 [ファイル]メニューの[開く]-[プロジェクト/ソリューション]をクリックし、保存したプロジェクトを読み出します。

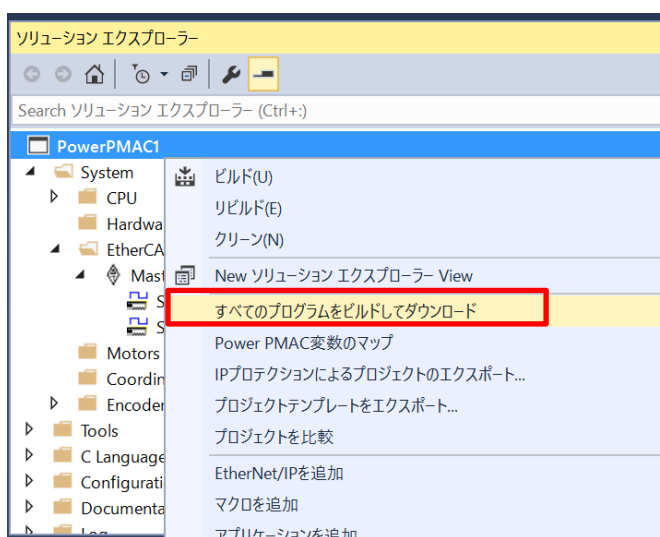


4 [ソリューションエクスプローラー]の[Configuration]上で右クリックし、メニューから[設定ファイルのダウンロード]を選択し、コントローラへダウンロードします。



5 [ソリューションエクスプローラー]のプロジェクト名を右クリックし、メニューから[すべてのプログラムをビルドしてダウンロード]を選択しビルド&ダウンロードを実行します。

ダウンロードが完了した後、出力で異常がないことを確認します。

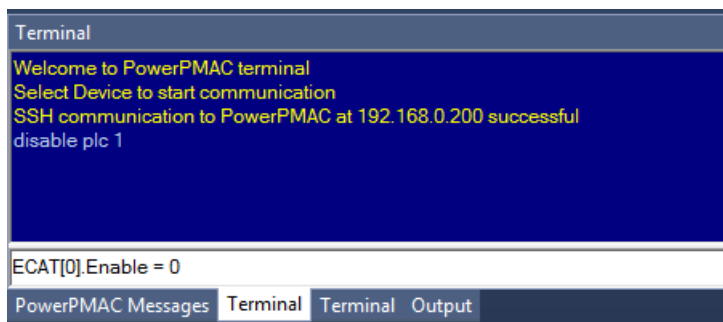
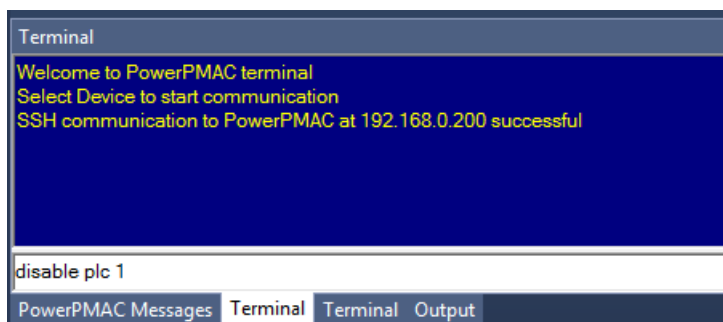


6 プログラムの停止

プログラムを実行している場合は、ターミナルから以下のコマンドを実行し、プログラムを停止します。

“disable plc 1”

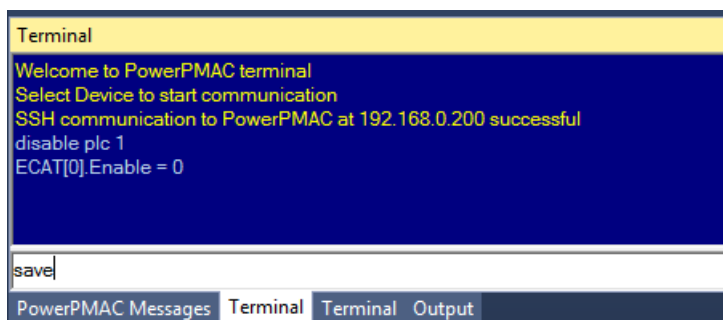
“ECAT[0].Enable=0”



7 ダウンロードした設定やプログラムの保存

ダウンロードが完了して出力で異常がないことを確認した後、ターミナルから save コマンドを実行します。

※save コマンドの実行により、ダウンロードしたプロジェクトをコントローラ内に記憶します。この操作で、コントローラの電源 ON 時に自動実行される設定を保存します。

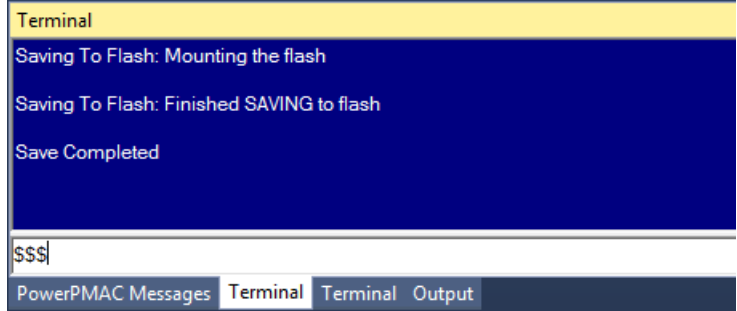


8

ダウンロード後の再起動

ターミナルから以下のコマンド
を実行し、ダウンロードしたプ
ロジェクトで再起動します。

“\$\$\$”



The screenshot shows a terminal window with a yellow title bar labeled "Terminal". The main area has a dark blue background with white text. The text displayed is: "Saving To Flash: Mounting the flash", "Saving To Flash: Finished SAVING to flash", and "Save Completed". Below the text is a white prompt line with "\$\$\$" and a cursor. At the bottom, there is a dark blue bar with four tabs: "PowerPMAC Messages", "Terminal" (which is selected and highlighted), "Terminal", and "Output".

```
Terminal
Saving To Flash: Mounting the flash
Saving To Flash: Finished SAVING to flash
Save Completed
$$$
PowerPMAC Messages Terminal Terminal Output
```

8. 付録 トラブルシュート

8.1. EtherCAT 通信できない要因と対処

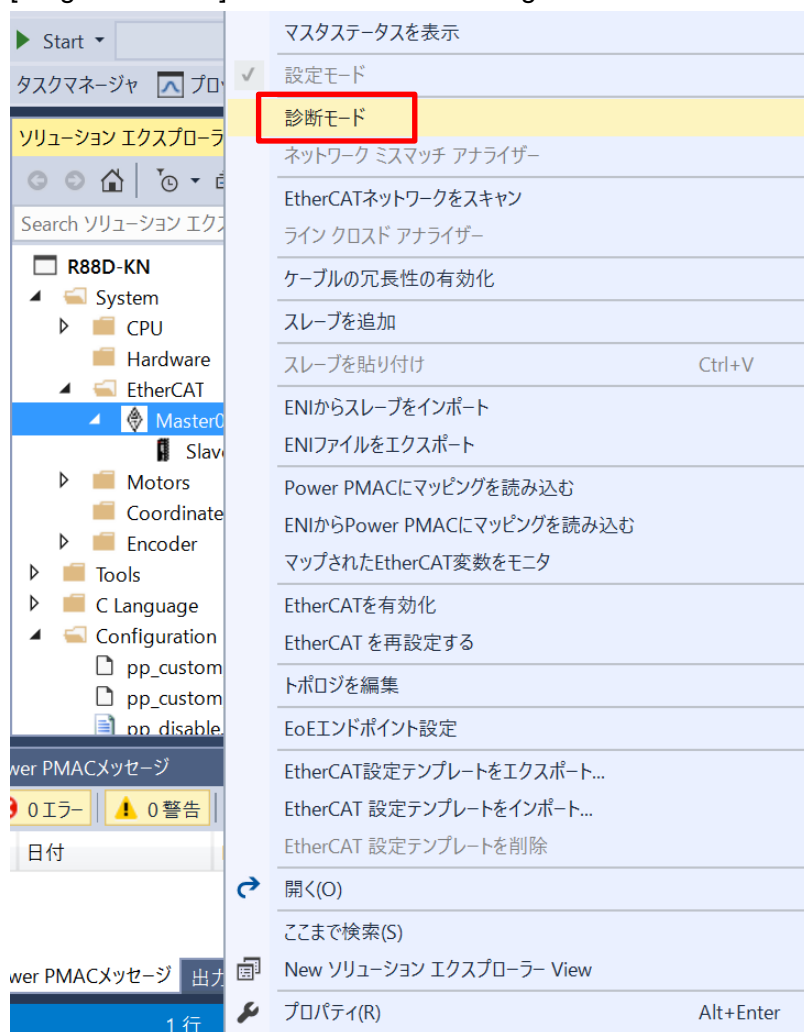
内容	要因	対処
リンクが確立しない	Ethernet ケーブルの断線、または指定外のケーブルを使用	Ethernet ケーブルが断線、または指定外のケーブルを使用している場合はケーブルを交換してください。
	EtherCAT 通信用 Ethernet ケーブルのコネクタのはずれ、接触不良、または部品不良	コネクタが正しくかん合しているかを確認、コネクタを再接続してください。
	EtherCAT ネットワークを構成しているスレーブの故障	スレーブを交換してください。
EtherCAT 通信が開始しない	ECAT[0].enable が 0 になっている。	ターミナルから “ECAT[0].Enable=1” コマンドを実行し、EtherCAT 通信を開始してください。
	コントローラの EtherCAT ネットワーク構成と実際のネットワークの構成が一致していない。	「6.5 EtherCAT 通信の設定」の手順に従い、設定を見直してください。
	途中のスレーブで Ethernet ケーブルが断線している。またはコネクタがはずれている。	Ethernet ケーブルを正しく接続してください。
	何らかのエラーが発生し、ECAT[0].error が 0 以外になっている。	ECAT[0].error の値を確認してください。
スレーブで同期異常が発生する	ディストリビューションクロックの設定が間違っている	「6.5.2 ディストリビュートクロックの設定」の手順に従い、設定を見直してください。
	フリーランモードのスレーブがリファレンスクロックになっている	
	サーボタスクの処理時間が設定した周期を超えている。	プログラムもしくはサーボ周波数を見直し、サーボタスクの処理時間が周期を超えないように調整してください。

8.2. 異常の確認方法

8.2.1. EtherCAT の状態を確認する

Power PMAC IDE の Diagnosis Mode で EtherCAT の状態を確認することができます。

[ソリューションエクスプローラー]の[System]-[EtherCAT]-[Master0 (無効化)]で右クリックし、[Diagnosis Mode]を選択することで、Diagnosis モードへ切り替わります。



Diagnosis Mode 画面でスレーブの状態を確認できます。

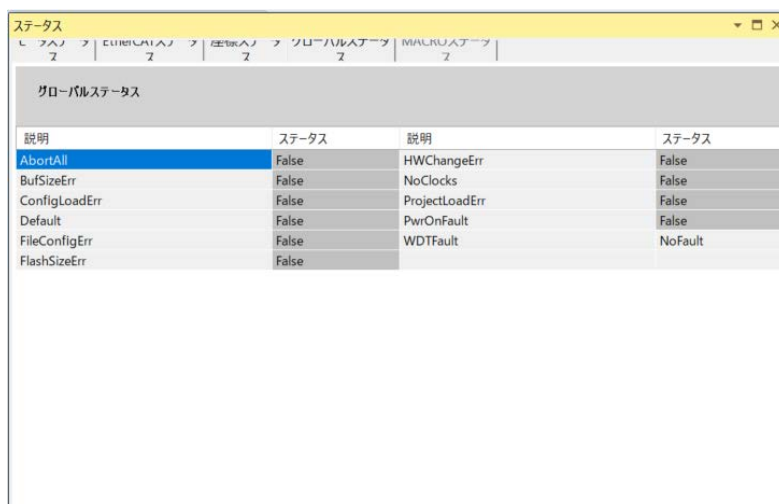


8.2.2. コントローラの状態を確認する

Power PMAC IDE の Status 画面で、モータ、座標系、システムの状態を確認できます。Status 画面を表示するには、ツールバーで[Status]をクリックします。

■Global Status

WDT エラーなどシステムのエラーを確認できます。



■Motor Status

モータの偏差エラーやリミットエラーなどの状態を確認できます。

ステータス			
グローバルステータス			
説明	ステータス	説明	ステータス
AbortAll	False	HWChangeErr	False
BufSizeErr	False	NoClocks	False
ConfigLoadErr	False	ProjectLoadErr	False
Default	False	PwrOnFault	False
FileConfigErr	False	WDTFault	NoFault
FlashSizeErr	False		

ステータス			
モータ 1 ● モータがアクティブ			
説明	ステータス	説明	ステータス
AmpEna	False	I2tFault	False
AmpFault	False	InPos	False
AmpWarn	False	InterlockStop	False
AuxFault	False	LimitStop	False
BIDir	Plus	MinusLimit	False
BlockRequest	False	PhaseFound	False
ClosedLoop	False	PlusLimit	False
Csolve	True	SoftLimit	False
DacLimit	False	SoftLimitDir	Plus
DesVelZero	True	SoftMinusLimit	False
EncLoss	False	SoftPlusLimit	False
FeFatal	False	SpindleMotor	False
FeWarn	False	TraceCount	0
GantryHomed	False	TriggerMove	False
HomeComplete	False	TriggerNotFound	False
HomeInProgress	False	TriggerSpeedSel	MaxSpeed

■ Coordinate Status

座標系の偏差エラーやリミットエラーなどの状態を確認できます。

ステータス			
座標系 1			
説明	ステータス	説明	ステータス
AddedDwellDis	True	LinToPvtBuf	False
AmpEna	False	LookAheadActive	False
AmpFault	False	LookAheadChange	False
AmpWarn	False	LookAheadDir	Forward
AuxFault	False	LookAheadFlush	False
BlockActive	False	LookAheadLookBack	False
BlockRequest	False	LookAheadReCalc	False
BufferWarn	0	LookAheadStop	False
CC3Active	False	LookAheadWrap	False
CCAddedArc	False	MinusLimit	False
CCMode	Off	MoveMode	LineCircle
CCMoveType	Dwell	PlusLimit	False
CCOffReq	False	ProgActive	False
ClosedLoop	False	ProgProceeding	False
ContMotion	False	ProgRunning	False
Csolve	True	SegEnabled	False
DesVelZero	False	SegHaltReq	False
EncLoss	False	SegMove	Off
EndDelayActive	False	SegMoveAccel	False
ErrorStatus	NoError	SegMoveDecel	False
FeedHold	Off	SegStopReq	False
FeFatal	False	SharpCornerStop	False
FeWarn	False	SoftMinusLimit	False
HomeComplete	False	SoftPlusLimit	False
HomeInProgress	False	TimerEnabled	False
I2tFault	False	TimersEnabled	False
InPos	False	TriggerMove	False
InterlockStop	False	TriggerNotFound	False
LimitStop	False		

9. 付録 ECAT[i]構造体要素

本コントローラは米国デルタ タウ データ システムズ社（以下、DT 社）が開発したモーションコントローラ技術を採用していますが、ECAT[i]構造体要素はDT 社製コントローラと差異があります。DT 社製コントローラからの主な変更点を以下に示します。

要素名	説明	変更点
ECAT[i].Enable	EtherCAT ネットワークの有効化	0：無効、1：有効 (2, 3 は非サポート)
ECAT[i].LPIO[k]	低優先度 I/O モジュールの構成要素	非サポート
ECAT[i].Slave[j]	スレーブ構成要素	非サポート
ECAT[i].Error	EtherCAT ネットワーク有効化のエラーコード	\$ 9811000C：ネットワーク構成不正 \$ 9811002E：ネットワーク接続が切断された
ECAT[i].LinkUp ECAT[i].LPDomainOutputState ECAT[i].LPDomainState ECAT[i].LPRxTime ECAT[i].LPTxTime ECAT[i].MasterStat ECAT[i].RTDomainOutputState ECAT[i].RTDomainState	ステータスデータ構造体要素	非サポート

10. 改訂履歴

改訂記号	改訂年月	改訂理由
A	2019 年 3 月	初版
B	2023 年 1 月	・ 形 CK5M 追加に伴う改訂 ・ PowerPMAC IDE の GUI 更新に伴う改訂

オムロン株式会社 インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー

製品に関するお問い合わせ先



0120-919-066

携帯電話・IP電話などではご利用いただけませんので、右記の電話番号へおかけください。

055-982-5015
(通話料がかかります)

受付時間：9:00～19:00 (12/31～1/3を除く)

クイック オムロン



オムロンFAクイックチャット

www.fa.omron.co.jp/contact/tech/chat/

技術相談員にチャットでお問い合わせいただけます。(I-Webメンバーズ限定)

受付時間：平日9:00～12:00 / 13:00～17:00 (土日祝日・年末年始・当社休業日を除く)

※受付時間、営業日は変更の可能性がございます。最新情報はリンク先をご確認ください。



その他のお問い合わせ：納期・価格・サンプル・仕様書は貴社のお取引先、または貴社担当オムロン販売員にご相談ください。オムロン制御機器販売店やオムロン販売拠点は、Webページでご案内しています。



オムロン制御機器の最新情報をご覧ください。緊急時のご購入にもご利用ください。 www.fa.omron.co.jp

本誌には主に機種のご選定に必要な内容を掲載しており、ご使用上の注意事項等を掲載していない製品も含まれています。

本誌に注意事項等の掲載のない製品につきましては、ユーザーズマニュアル掲載のご使用上の注意事項等、ご使用の際に必要な内容を必ずお読みください。

- 本誌に記載の標準価格はあくまで参考であり、確定されたユーザ購入価格を表示したものではありません。本誌に記載の標準価格には消費税が含まれておりません。
- 本誌にオープン価格の記載がある商品については、標準価格を決めていません。
- 本誌に記載されているアプリケーション事例は参考用ですので、ご採用に際しては機器・装置の機能や安全性をご確認の上、ご使用ください。
- 本誌に記載のない条件や環境での使用、および原子力制御・鉄道・航空・車両・燃焼装置・医療機器・娯楽機械・安全機器、その他人命や財産に大きな影響が予測されるなど、特に安全性が要求される用途に使用される際には、当社の意図した特別な商品用途の場合や特別の合意がある場合を除き、当社は当社商品に対して一切保証をいたしません。
- 本製品の内、外国為替及び外国貿易法に定める輸出許可、承認対象貨物（又は技術）に該当するものを輸出（又は非居住者に提供）する場合は同法に基づく輸出許可、承認（又は役務取引許可）が必要です。
- 規格認証/適合対象機種などの最新情報につきましては、当社Webサイト (www.fa.omron.co.jp) の「規格認証/適合」をご覧ください。

オムロン商品のご用命は

カタログ番号 SBCE-461B

2023年1月現在

©OMRON Corporation 2019 - 2023 All Rights Reserved.

お断りなく仕様などを変更することがありますのでご了承ください